

看護科 (2年次)

2025年度 シラバス目次

科目名	項
宗教と生命	2
カウンセリング論	3
医療応用英語	4
医療基礎中国語	6
研究の基礎	7
身体が見える病態治療学Ⅸ 女性生殖器	9
身体が見える病態治療学Ⅹ 血液・アレルギー・膠原病	11
身体が見える病態治療学Ⅺ 小児	13
身体が見える病態治療学Ⅻ 精神	14
臨床栄養学	15
先端医療と予防医学	17
チーム医療論	18
看護における薬物療法	20
看護シミュレーション基礎演習	22
地域で暮らすことを支える	23
地域で療養する人を支えるⅡ 共助、公助	24
地域で療養する人を支えるⅢ 在宅看護技術	26
地域で療養する人を支えるⅣ 在宅看護の実際	28
病気と共に生きる成人を支えるⅡ (クリティカルケア)	29
病気と共に生きる成人を支えるⅢ 周術期	31
病気と共に生きる成人を支えるⅣ がん看護、緩和ケア	33
病気と共に生きる成人を支えるⅤ 臨床判断と看護技術	35
高齢者の健康を支える	37
高齢者のもてる力を活かす	39

科目名	項
高齢者のその人らしさを支える	41
その子らしく育つを支える	43
こどもと家族を支えるⅠ 病気のこどもと家族を支える看護	45
こどもと家族を支えるⅡ こどもの力を引き出す看護技術	47
こどもと家族を支えるⅢ こどもの命を守る臨床判断	49
女性と家族を支えるⅠ 妊娠期、分娩期	51
女性と家族を支えるⅡ 産褥期・新生児期	53
女性と家族を支えるⅢ 事例から学ぶ	55
こころを支えるⅠ こころのとらえ方と技術	56
こころを支えるⅡ 社会で暮らす	58
こころを支えるⅢ 事例から学ぶ	60
基礎看護学実習Ⅱ 看護への思考と質の保証	62
成人看護学実習 病気の予防をする	65
老年看護学実習 在宅や施設で生活する高齢者	67
小児看護学実習Ⅰ その子らしく育つを学ぶ	71
母性看護学実習Ⅰ 生と性を学ぶ	74

キャンパスライフガイド

学科・学年	看護科 2学年
科目名	宗教と生命
担当者	野村 斉史 / 小山 儀秋
単位数(時間数)	1単位(15時間)
学習方法	講義
教科書・参考書	医学書院 系統看護学講座 看護倫理 医学書院 系統看護学講座 総合医療論

授業概要と目的

人は何かを心の拠り所にし、自分自身の課題を見出したり、生きる時の支えとしている場合がある。宗教への考え方は人それぞれであり、誰かに強制的に教えられる場合もあるが、日本人のように無宗教で葬儀や人生の岐路に宗教の考え方を取り入れて生活している場合もある。その宗教の考え方や特徴を知ること、人間の存在・価値観・ものの見方を理解し、人々の価値観やいつの間にか形成されていく倫理観へつながることを学ぶ科目とする。臨床の場面において、様々な生命倫理的問題に直面するため、生命に対する理解を深め、一人一人が考え、判断し、行動するための生命や生きるとはどういうことなのかを考える科目である。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標(SBOs)	担当者
1	前期	宗教と現代社会とのつながりを理解する	宗教と現代社会とのつながりを説明できる	野村 斉史
2	前期	ユダヤ教・キリスト教・イスラム教を理解する	ユダヤ教・キリスト教・イスラム教を説明できる	
3	前期	仏教を理解する	仏教を説明できる	
4	前期	倫理学の基本的な考え方 ・倫理とは何かを学ぶ ・義務論と帰結主義を学ぶ	倫理学の概念について説明できる。 ・義務論帰結主義の問題点を考えることができる。 ・これまでの経験からナラティブについて説明できる。	小山 儀秋
5	前期	倫理学の基本的な考え方 ・生命倫理とは何か、歴史、4原則を学ぶ ・インフォームドコンセントについて学ぶ。守秘義務・個人情報保護について学ぶ	生命倫理の概念について説明できる。 ・生命倫理の4原則について説明できる。 ・守秘義務と個人情報保護について臨地実習できをつけることが説明できる。	
6	前期	性と生殖の生命倫理 ・性について学ぶ。 ・生殖について学ぶ ・性と生殖に対する医療的介入について学ぶ。	性と生殖における倫理の考え方を説明できる。	
7	前期	死の生命倫理 ・死について、死生学を学ぶ。 ・告知についての課題を学ぶ。 ・終末期の治療について学ぶ	死と医療について説明できる。 ・家族や知人が病気になったとき、病名や告知をするかどうか説明できる。	
8	前期	1) 科目試験(45分)		
成績評価方法		(野村)筆記試験40%、(小山)筆記試験60%		
準備学習など		予習・復習を自主的に行い、積極的に学ぶ姿勢で受講してほしい。		
留意事項				

キャンパスライフガイド

学科・学年	看護科 2学年
科目名	カウンセリング論
担当者	青柳雅也
単位数(時間数)	1単位(30時間)
学習方法	講義
教科書・参考書	系統看護学講座基礎分野 人間関係論 C. ロジャーズ著, H. カーシェンバウム, V. L. ヘンダーソン編, 伊東博・村山正治監訳, ロジャーズ選集(上). (2001). 誠信書房.

授業概要と目的

カウンセリングとは、カウンセラー（治療者）・相談者（患者、クライアント）間の心理的交流を通して、相談者の悩みや問題の解決を図る援助技法である。相手の話によく耳を傾け、信頼関係を築きながら治療的関わりを行うことは、対人援助職の基本姿勢であることがいえよう。カウンセリングや心理療法は、臨床心理学領域において発展した技法であるが、医療とも関係が深い分野である。臨床心理学的知見に基づいた人間理解は、相手との関係をよりよいものにするだけでなく、自身のメンタルヘルスを良好に維持するためにも有用な視点といえる。

本科目においては、カウンセリングの基本的事項を臨床心理学の立場から理解することを大きな目標とする。そして、カウンセラーに必要な態度を学ぶことを通して、医療人として生きていく上で重要な“相手を尊重し、自分も大切にすること”について、自分なりの気づきを得るための一助となることを目指す。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標(SBOs)	担当者
1	前期	心理学導入	関心を持って楽しむことができる	青柳
2	前期	印象	印象の効果を理解し、自分の印象を把握する	
3	前期	ストローク	ストロークが持つ必要性と効果を理解する	
4	前期	エゴグラム	自分の性格のバランスを理解する	
5	前期	集団心理学	集団心理の危険性やチームの強みを体感する	
6	前期	オノマトペ	オノマトペが持つ効果を理解する	
7	前期	認知	自分がどういう世界を認知しているか理解する	
8	前期	コア・ビリーフ	物の捉え方の主観的癖を理解する	
9	前期	プレゼン①	認知をシェアするための実践を体感する	
10	前期	プレゼン②	認知をシェアするための実践を体感する	
11	前期	傾聴	聴く技術を体感し理解する	
12	前期	言葉力	言葉が持つ曖昧さに気づく	
13	前期	究極の選択(命)	究極の選択から主義主張をして影響し合う	
14	前期	マインドマップ	自分自身を視える化する術を学ぶ	
15	前期	授業総括		
成績評価方法		授業参加態度＋レポート内容		
準備学習など				
留意事項		テストで点を採ればよいという形式ではありません。授業に積極的参加を意識してください。		

キャンパスライフガイド

学科・学年	看護科 2学年
科目名	医療応用英語
担当者	違道 アポロニア
単位数(時間数)	1単位(30時間)
学習方法	講義
教科書・参考書	Vital Signs (Revised Edition) Essential English For Healthcare Professionals

授業概要と目的

臨床現場でのさまざまな対象との基本的会話や、場面に応じた会話表現の方法を学ぶ。円滑なコミュニケーションの実際に役立つ英会話の方法を学ぶ。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標(SBOs)	担当者
1	通年	Course introduction, outline, and expectations. Students and teacher introductions/activities	Effective public speaking skills can help with career advancement, as they indicate creativity, critical thinking skills, leadership abilities, poise, and professionalism, qualities which are very valuable for the job market.	違道 アポロニア
2	通年	Hospital Departments	Learning different Hospital Departments, identifying medical problems and expressions. Describing medical departments.	
3	通年	Application Forms	Filling out patient's application forms/Learning different occupations/Practice speaking regarding application forms/Learning months, cardinal numbers and ordinal numbers./Titles of people in business or formal situations.	
4	通年 + Documen- tary Video Slides/ Clips	Parts of the Body plus main functions	Medical Symptoms/External and Internal Body Parts/Additional information regarding body parts.	
5	通年 + Documen- tary Video Slides/ Clips	Learning about Vital signs and Illnesses (Diseases)	Vital Signs Symptoms and identifying illnesses and diseases/Grammar: Past tenses and how to use them; Regular and Irregular Verbs	
6	通年	Daily Routine	Explaining daily routines to a patient in a hospital/Learning about hospital rules/Telling time/Grammar: Prepositions related to dates and times.	
7	通年	Hospital Objects	Medical Objects, Tools & Equipment and their usage./Grammar; Countable and Uncountable nouns; Ways to express the future tenses in English.	

8	通年	Locations of Hospital Objects	Dialogues and discussions of what is needed to get ready for a patient./Prepositions; using words and phrases to describe where objects are located/ Practice and Substitution./ Grammar: Progressive Tense forms.	違道 アポロニア
9	通年	Hospital Directions and Instructions	Giving directions to several patients in a hospital/Giving indoor directions/Giving instructions and reasons between a healthworker and a patient.	
10	通年	Directions (Outside the Hospital)	Giving directions to places outside the hospital/Vocabularies of places/Grammar: Active and Passive voice/ Learning the difference of metric system and imperial system.	
11	通年	Medicine/ Medicine Types / Medical Procedures /Prescribing Medicine to patients and giving instructions	Learning vocabularies on medicine and medicine types. Giving prescriptions and instructions to patients on the doses. Giving IV drip instructions, taking blood pressure, enemas (instructions to patients)	
12	通年	Taking a Medical History	Dialogue practice of medical workers asking about a patient’s medical history/ Grammar: Usage of For, Since and Ago/Reviewing Verbs (present, past and past participles)/Grammar: Frequency expressions/Hospital Activities/ Leading Causes of Death.	
13	通年	Hospital Procedures	Talking about surgery to a patient and checking understanding of it/Grammar: Tag questions (how to make questions and how to answer them.)	
14	通年	REVIEWS/ Practicing for the Speaking Exams/Pointers for the Final Written Exams	Checking students’ understanding regarding the material / Oral Practice for the spaeking exams /Vocabulary Pointers for Final exams.	
15	通年	1)Speaking Examination (Oral pairwork) 2)Written Examination		
成績評価方法		*Attendance, Class Participation, Class Activities 20% *Final Examination (Speaking Skills 30% and Written/Comprehensive Test 50%)		
準備学習など		Practicing speaking Speaking is a skill which is needed to be polished. The more you practice, the better you will become, until finally you can do it without needing to think much about it. The goal is to get students to react in English, rather than in Japanese. Vocabularies are introduced, ,learned and explained in appropriate contexts.		
留意事項		Students are expected to: 1. Bring the textbook and English–Japanese and Japanese–English dictionaries every class. 2. Review the vocabulary and phrases learned in class, both orally and in writing. 3. Doing homework for the preceding unit of the material is advisable for a smooth phasing of the class 4. Spend 60–90 minutes a week for reviewing on what has been learned. • Each night, spend some time reviewing vocabulary, phrases, and dialogues gone over in class. Keeping a journal of vocabularies would be very effective. • Complete assigned homework before class. • Bring course materials to each class; textbook, reference materials, as well as a dictionary		

キャンパスライフガイド

学科・学年	看護科 2学年
科目名	医療基礎中国語
担当者	徳谷 冬暁
単位数(時間数)	1単位(30時間)
学習方法	医療現場の日常会話ができるように、音声コンテンツの学習を取り入れ、単語や会話を反復練習させる。
教科書・参考書	医療系学生のための初級中国語 白帝社

授業概要と目的

グローバル社会での外国の対象の看護実践での正しい中国語の活用の基礎を学ぶ。臨床現場に即した中国語の活用について学ぶ。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標 (GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期	概論	標準語、音節、発音など	徳谷 冬暁
2	前期	基本的な会話	你好などの日常挨拶表現	
3	前期	人称代詞	主語+述語動詞+目的語	
4	前期	疑問代詞を使った疑問文	”～吧, ～吗” 推量を表す文末助詞	
5	前期	健康保険証を持っていますか？1	”的”の用法:連体修飾語+的+被修飾語	
6	前期	健康保険証を持っていますか？2	疑問代詞を使った疑問文と反復疑問文	
7	前期	検査室はどこですか？1	願望を表わす助動詞:想+動詞	
8	前期	検査室はどこですか？2	選択疑問文:A还是B？	
9	前期	どうしましたか？1	状態補語:動詞/形容詞+得+補語	
10	前期	どうしましたか？2	使役表現:使役動詞+人+動詞	
11	前期	この薬を飲んだことがありますか？1	二重目的語:動詞+間接目的語+直接目的語	
12	前期	この薬を飲んだことがありますか？2	経験態:動詞+过	
13	前期	今までどんな病気がありましたか？	完了態:動詞+了	
14	前期	授業総括	まとめ。総復習	
15	前期	科目試験		
成績評価方法		30%学習態度、実践表現力　30%レポートなどの課題　40%テストの得点		
準備学習など		テキストと音声CDを用い、予習復習をすること		
留意事項				

学科・学年	看護科 2学年
科目名	研究の基礎
担当者	青山 和裕 / 杉尾 浩規
単位数(時間数)	1単位(30時間)
学習方法	講義
教科書・参考書	系統看護学講座 基礎分野 統計学 医学書院 系統看護学講座 別巻 看護研究 医学書院

授業概要と目的

集団的現象に関する数字データを処理・分析する数理統計学の基礎を学ぶ。また、数字データを整理・要約し、集団について度数分布・平均・標準偏差・相関など統計解析的観察に基づいて分析・記述する統計学の基礎を学ぶとともに、看護研究におけるデータ収集分析の基礎的知識を養う。研究論文の作成に必要な基礎知識を理解し、現象を科学的に分析し、評価し、創造的な実践を開発する研究の基礎能力を養う。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標(SBOs)	担当者
1	前期	統計の役割と意義について理解する。	社会で統計がどのように活用されているか、また医療分野においてどのように活用されているかなどについて事例を2つ以上紹介できるようになる。	青山 和裕
2	前期	基本的な統計量及び統計グラフについて理解する。	平均値、中央値などの基本統計量と棒グラフや円グラフなどの統計グラフについて、Excelを用いて演算・表示することができる。	
3	前期	標本・母集団について理解する。	標本調査の必要性や無作為抽出について口頭で説明ができる。Excelを用いて乱数を発生させ標本抽出を実験的に行うことができる。	
4	前期	信頼区間について理解する。	与えられたデータセットからExcelを用いて信頼区間を求めることができる。	
5	前期	仮説検定について理解する。	仮説検定の仕組みや有意水準について口頭で説明ができる。	
6	前期	χ^2 乗検定について理解する。	与えられたデータセットからExcelを用いて χ^2 乗検定を行うことができる。	
7	前期	t検定について理解する。	与えられたデータセットからExcelを用いてt乗検定を行うことができる。	
8	前期	研究とは何かを理解できる。	「研究」の全体を自分の言葉で説明できる。	杉尾 浩規
9	前期	研究とは何かを理解できる。	「考えること」の大切さを説明できる。	
10	前期	研究とは何かを理解できる。	文章(論文)の大切さを説明できる。	
11	前期	研究テーマ及び研究デザインを理解できる。	研究の意義、目的、実践活動との関係を説明できる。	
12	前期	研究テーマ及び研究デザインを理解できる。	研究テーマの意義とその設定方法を説明できる。	

13	前期	研究テーマ及び研究デザインを理解できる。	研究テーマに対応した研究デザインを説明できる。	杉尾 浩規
14	前期	研究の倫理を理解できる。	研究の倫理及びその具体例としての研究計画書と倫理申請書の構成を説明できる。	
15	前期	1) 科目試験	筆記試験	青山
	前期	1) 科目試験	筆記試験	杉尾
成績評価方法		(青山) 筆記試験50%。(杉尾) 筆記試験50%→毎授業時提出のリフレクションペーパーの内容も評価の参考資料とする。各講師ごとに試験を行います。		
準備学習など		(杉尾) 毎回の授業内容は、それまでの授業内容を前提とし、それぞれ関連しながら次の回へと展開します。それまでの授業レジュメを復習し講義の全体的流れをイメージしながら、毎回の講義に出席して下さい。		
留意事項		(杉尾) 研究の根本には「自ら疑問を抱き考える」という姿勢があります。本科目では、将来における看護研究のための専門知識の暗記というよりも、毎日を生きる一人の人間として疑問を持ち考えることの意義を重視します。受講者は、日常生活の営みの中で感じる素朴な疑問や不思議さを大切にするように心がけて下さい。このような理由から、毎授業時、エッセイ程度の文章の要約と感想をリフレクションペーパーに記述してもらいます(エッセイは事前に配布しますので大きな負担はありません。配布資料を読んで毎回の授業に参加して下さい)。これは、同時に、研究における先行研究調査(文献レビュー)の訓練という実践的役割も担っています。これらリフレクションペーパーの内容は評価の参考資料とします。 * 青山先生の授業はセミナー室を使用します。		

学科・学年	看護科 2学年
科目名	身体が見える病態治療学Ⅸ 女性生殖器
担当者	原 泰夫 / 藤田 和寿
単位数(時間数)	1単位(15時間)
学習方法	講義
教科書・参考書	系統別看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能① 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑨ 女性生殖器 医学書院

授業概要と目的

看護は人を対象にする専門職であり、対象となる人を視て身体の中で起きていることを知り、これから起こることを予測して判断する能力が求められる。
 正常な身体の仕組みと働きが損なわれることで病気になることから、正常を知り、疾病をもった対象となる人を視て体の中で起きていることを知り、これから起こることを予測して判断する能力の基礎を学習する。
 女性生殖器の特徴的な疾患について病気のプロセスと病態生理、症状と経過、診断基準、検査データ、治療法、予後について学習し、専門科目で学ぶ看護学の基盤とする。
 医師として実務経験のある教員が、その経験を活かし講義を担当する。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標(SBOs)	担当者
1	前期	「女性生殖器」 乳房の解剖と機能を理解する	「1) 乳房の構造と機能」 ・乳房の解剖生理について説明できる	原 泰夫
2	前期	「乳房の疾病」 腫瘍性病変(乳がん)の症状、診断、 治療を理解する。	「1) 乳がんのサブタイプ分類、診断、自己検 診、治療(手術療法、ホルモン療法、化学療 法、分子標的治療薬、放射線療法、予後)」 ・乳がん症状、診断、治療について説明でき る。	
3	前期	「乳房の疾病」 腫瘍性病変(乳がんを除く)、炎症性 病変の症状、診断、治療について理 解する	「2) 乳腺良性腫瘍 3) 乳腺良性腫瘍疾患 4) 発生・発育の異常 5) 炎症」 ・上記疾患の症状・診断・治療について説明 できる	
4	前期	「女性生殖器」 女性生殖器の解剖と機能を理解する	「1) 女性生殖器の構造 2) 女性生殖器の機能」 ・女性生殖器の解剖とホルモン動態について 説明できる。	藤田 和寿
5	前期	「症状と病態生理」 女性生殖器に関わる症状と病態生理 を理解する主たる原因疾患を理解す る。	「1) 出血 2) 帯下 3) 外陰部掻痒感 4) 自立神経症状、不定愁訴 5) リンパ浮腫」 上記症状について病態を説明できる。	

6	前期	「女性生殖器の疾病」 女性生殖器の主な疾病について知り 診断・治療方針について理解する	「1. 主な疾患と診断・治療・検査 1) 外陰部の疾患 ベーチェット病 2) 膣の疾患 膣炎 3) 子宮の疾患 子宮頸がん 子宮体がん 子宮内膜症 4) 卵管の疾患 5) 卵巣の疾患 卵巣嚢腫 6) 機能的疾患 月経異常 更年期障害 不妊症 7) 感染症 性感染症 8) 外科的治療」 上記疾患について診断・治療について説明 できる。	藤田 和寿
7	前期			
8			1) 科目試験(45分)	
成績評価方法		(原)筆記試験40%、(藤田)筆記試験60%		
準備学習など				
留意事項				

キャンパスライフガイド

学科・学年	看護科 2学年
科目名	身体が見える病態治療学Ⅹ 血液・アレルギー・膠原病
担当者	野村 隆士 / 斎藤研 / 加藤 忠
単位数(時間数)	1単位 30時間
学習方法	講義
教科書・参考書	系統別看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能① 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学④ 血液・造血器 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑪ アレルギー・膠原病・感染症 医学書院

授業概要と目的

看護は人を対象にする専門職であり、対象となる人を視て身体の中で起きていることを知り、これから起こることを予測して判断する能力が求められる。
 正常な身体の仕組みと働きが損なわれることで病気になることから、正常を知り、疾病をもった対象となる人を視て体の中で起きていることを知り、これから起こることを予測して判断する能力の基礎を学習する。
 女性生殖器の特徴的な疾患について病気のプロセスと病態生理、症状と経過、診断基準、検査データ、治療法、予後について学習し、専門科目で学ぶ看護学の基盤とする。
 医師として実務経験のある教員が、その経験を活かし講義を担当する。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標 (GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	通年	血液と造血のしくみ(1) ・血液の構造と機能を理解する	・血液の構造と機能を説明できる。	野村 隆士
2	通年	血液と造血のしくみ(2) ・造血のしくみを理解する	・造血のしくみを説明できる。	
3	通年	自己免疫(1) ・自己免疫の構造とその仕組みを理解する	・自己免疫の構造を説明できる。	
4	通年	自己免疫(2) ・自己免疫の構造とその仕組みを理解する	・非特異的防御機能を説明できる。	
5	通年	自己免疫(3) ・自己免疫の構造とその仕組みを理解する	・特異的防御機能を説明できる。	
6	通年	自己免疫(4) ・自己免疫の構造とその仕組みを理解する	・生体防御の関連臓器について説明できる。	
7	通年	血液(1) ・赤血球系の異常、白血球系の異常を理解する	・疾病の成り立ちと病態生理、特徴的な症状と経過、診断、治療方法が説明できる。	加藤 忠
8	通年	血液(2) ・造血器腫瘍を理解する	・疾病の成り立ちと病態生理、特徴的な症状と経過、診断、治療方法が説明できる。	
9	通年	血液(3) ・出血性疾患を理解する	・疾病の成り立ちと病態生理、特徴的な症状と経過、診断、治療方法が説明できる。	

10	通年	免疫機能の疾病(1) ・免疫機能の疾病の病態と症状、診断、治療を理解する	・膠原病の病態生理、特徴的な症状と経過、診断・治療方法が説明できる。	齋藤 研
11	通年	免疫機能の疾病(2) ・免疫機能の疾病の病態と症状、診断、治療を理解する	・関節リウマチの病態生理、特徴的な症状と経過、診断・治療方法が説明できる。	
12	通年	免疫機能の疾病(3) ・免疫機能の疾病の病態と症状、診断、治療を理解する	・全身性エリテマトーデス、抗リン脂質抗体症候群の病態生理、特徴的な症状と経過、診断・治療方法が説明できる。	
13	通年	免疫機能の疾病(4) ・免疫機能の疾病の病態と症状、診断、治療を理解する	・シューグレン症候群、全身性強皮症の病態生理、特徴的な症状と経過、診断・治療方法が説明できる。	
14	通年	免疫機能の疾病(5) ・免疫機能の疾病の病態と症状、診断、治療を理解する	・多発筋炎。皮膚筋炎、ベーチェット病、血管炎症候群の病態生理、特徴的な症状と経過、診断・治療方法が説明できる。	
15	通年	1) 科目試験(60分)		
成績評価方法		(野村)筆記試験40%、(加藤)筆記試験20%、(齋藤)筆記試験40%		
準備学習など				
留意事項				

学科・学年	看護科 2学年
科目名	身体が見える病態治療学Ⅺ 小児
担当者	山崎俊夫
単位数(時間数)	1単位(15時間)
学習方法	講義
教科書・参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児臨床看護各論 小児看護学② 医学書院

授業概要と目的

こどもに特徴的な疾患の病態生理、及び診断とその治療・検査について理解する。
医師として実務経験のある教員が、その経験を活かし講義を担当する。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標 (GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期	遺伝子異常、染色体異常、新生児の生理、主な疾患について理解する	染色体異常や体内環境により発症する先天異常、新生児疾患と病態生理、特徴的な症状と経過、診断・治療方法を説明できる。	山崎 俊夫
2	前期	こどもの主な代謝性疾患、内分泌疾患について理解する	代謝性疾患、内分泌疾患の成り立ちと病態生理、特徴的な症状と経過、診断・治療方法を説明できる。	
3	前期	免疫、アレルギー疾患、リウマチ性疾患の病態を理解する。主な感染症の診断、治療についての知識を習得する。	免疫、アレルギー、リウマチ性疾患、感染症の成り立ちと病態生理、特徴的な症状と経過、診断・治療方法を説明できる。	
4	前期	こどもの呼吸器、循環器、消化器疾患の診断、治療について理解する。	呼吸器、循環器、消化器疾患の成り立ちと病態生理、特徴的な症状と経過、診断・治療方法を説明できる。	
5	前期	主な血液、造血器、悪性新生物疾患の病態を理解するとともに診断、治療法を身につける。	血液、造血器疾患、悪性新生物疾患の成り立ちと病態生理、特徴的な症状と経過、診断・治療方法を説明できる。	
6	前期	腎・泌尿器、生殖器疾患、神経、精神疾患について理解する。	腎・泌尿器及び生殖器疾患、神経、精神疾患の成り立ちと病態生理、特徴的な症状と経過、診断・治療方法を説明できる。	
7	前期	こどもの事故、外傷について理解する。また、子供に特徴的な検査の目的、方法を習得する。	こどもの主な事故、外傷の原因と、症状、処置、治療について説明できる。また、こどもの特徴的な検査の目的とその方法について説明できる。	
8	前期	1) 科目試験(45分)		
成績評価方法		筆記試験(100点)		
準備学習など		予定されている授業内容について教科書を読んでおく		
留意事項				

キャンパスライフガイド

学科・学年	看護科 2学年
科目名	身体が見える病態治療学Ⅻ 精神
担当者	内田 潤
単位数(時間数)	1単位(15時間)
学習方法	講義
教科書・参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学1 精神看護の基礎 医学書院

授業概要と目的

精神障害を理解するために必要な基礎的知識である精神機能とその障害の概念について学び、精神障害の病因・症状・診断・治療について学ぶ。また、症状が対象者のセルフケア行動にどのような影響を与えているのかを査定する知識について学び、精神に健康障害をもつ対象の看護をするのに必要な基盤となる知識と考え方を身につける。医師として実務経験のある教員が、その経験を活かし講義を担当する。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標(SBOs)	担当者
1	前期	精神症状について理解する	精神を病むことと生きることについて考える 精神症状について知る	内田 潤
2	前期	精神障害の診断を分類について理解する 統合失調症について理解する	精神疾患の分類について説明できる 統合失調症について説明できる	
3	前期	気分障害と神経症性障害について理解する	気分障害と神経症性障害について説明できる	
4	前期	物質使用障害、その他の精神障害(一部)について理解する	物質使用障害、その他の精神障害について説明できる	
5	前期	その他の精神障害(残り)について理解できる	その他の精神障害について説明できる	
6	前期	精神療法について理解する	精神療法について説明できる	
7	前期	薬物療法、その他の治療方法について理解する	薬物療法、その他の治療方法について説明できる	
8	前期	1)科目試験(45分)		
成績評価方法		筆記試験		
準備学習など				
留意事項				

キャンパスライフガイド

学科・学年	看護科 2学年
科目名	臨床栄養学
担当者	兼平奈奈
単位数(時間数)	1単位(30時間)
学習方法	講義、課題発表
教科書・参考書	系統看護学講座 専門基礎分野 栄養学 医学書院 系統看護学講座 別巻 栄養食事療法

授業概要と目的

生体が発育・成長して生命を維持し、健全な生命活動を営むための必須物質である栄養素と食生活の知識、栄養生理や傷病者の栄養治療の基本を学び、健康増進と傷病者の治療に貢献するアドバイスできるようになる。(病院での管理栄養士業務経験がある非常勤講師が本科目を担当する)

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標(SBOs)	担当者
1	前期	栄養の概念と主要エネルギー産生栄養素の種類と働きを理解する	主要エネルギー産生栄養素の働きを説明でき、アトウォーター係数を用いたエネルギー算出ができる。	兼平 奈奈
2	前期	5大栄養素の種類と、水の働きを理解する	ビタミン、ミネラル、食物繊維、水の働きを説明できる。	
3	前期	食物の消化と栄養素の吸収について理解する	各種栄養素の生体内における吸収形態の違いをまとめることができる。	
4	前期	栄養素の代謝と代謝産物の排泄について理解する	各種栄養素の代謝と最終代謝産物の排泄経路をまとめることができる。	
5	前期	栄養ケア・マネジメントの目的と方法を理解する	栄養ケア・マネジメントの一連の流れを説明できる。	
6	前期	栄養アセスメントと栄養診断の方法を理解する①	臨床診査、身体計測、体組成分析から栄養アセスメントを考察できるようになる。	
7	前期	栄養アセスメントと栄養診断の方法を理解する②	臨床検査、食事摂取量から栄養アセスメントを考察できるようになる。	
8	前期	各種疾患の病態生理の理解と、栄養食事療法の基本を理解する①	肝疾患症例の栄養アセスメントと、合併症対策の栄養食事療法を考察できるようになる。	
9	前期	各種疾患の病態生理の理解と、栄養食事療法の基本を理解する②	糖尿病症例の栄養アセスメントと、栄養食事療法を考察できるようになる。	
10	前期	各種疾患の病態生理の理解と、栄養食事療法の基本を理解する③	腎疾患症例の栄養アセスメントと、合併症対策の栄養食事療法を考察できるようになる。	

11	前期	栄養補給法、経腸栄養剤製品・静脈栄養輸液を理解する	経腸栄養剤・静脈栄養輸液の組成特徴と合併症対策を考察できるようになる。	兼平 奈奈
12	前期	病院食の種類と意義、場面別栄養管理を理解する	一般治療食・特別治療食の適応疾患を説明できるようになる。	
13	前期	ライフステージにおける栄養について理解する	乳幼児期・学童期、思春期・青年期・成人期、高齢期の栄養摂取と健康との関わりを述べることができる。	
14	前期	日本人の食事摂取基準、生活習慣病の予防・食生活の改善の施策を理解する	健康増進に貢献する食事を含めた生活の在り方をアドバイスできるようになる。	
15	前期	1) 授業総括 2) 科目試験	臨床栄養学の知識から対象者に併せたアドバイスができるようになる。	
成績評価方法		科目試験80%、課題レポート20%		
準備学習など		指定した翌週までの予習を行なっておく。授業日の内容を再確認する。		
留意事項		特になし		

キャンパスライフガイド

学科・学年	看護科 2学年
科目名	先進医療と予防医学
担当者	岩田 宏
単位数(時間数)	1単位(15時間)
学習方法	講義
教科書・参考書	系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援 医療概論 医学書院

授業概要と目的

現代医療の現状と展望を学習し、これからの医療・看護に求められる看護専門職者としての知識を深める。医師として実務経験のある教員が、その経験を活かし講義を担当する。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標 (GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	後期	・医療の歩みを理解する。 第2章	・我が国の医療の歩みを述べる。 ・時代の変化による医療観の移りかわりを述べる。 ・これからの医療観について考える。	岩田 宏
2	後期	・現代医療の最前線を知る 第4章	・がん診療とその最前線を述べる。 ・移植医療とその最前線を述べる。 ・人工臓器の開発について述べる。	
3	後期		・再生医療とその最前線を述べる。 ・体外受精と出世以前診断について述べる。 ・画像診断とその最前線を述べる。 ・画像診断装置の進歩について述べる。	
4	後期	・現代医療の課題第5章	・医療による有害事象について述べる。 ・医原病という考え方について述べる。	
5	後期		・先端医療がもたらした倫理上の課題について述べる。 ・倫理上のジレンマについて考える。	
6	後期	・医療を見つめなおす新しい視点 第6章	・臨床疫学―医療における合理的判断について述べる。 ・安全な医療の提供のためにどんなしくみが必要かを考える	
7	後期		・情報化社会により今後の医療はどのように変わっていくかを述べる ・これからの先端医療技術開発とその課題を述べる	
8	後期	科目試験 (45分)		
成績評価方法		筆記試験		
準備学習など				
留意事項				

学科・学年	看護科 2学年
科目名	チーム医療論
担当者	菊井 友 / 田中 敏彦 / 花隈 淳 / 奥地 伸城 / 西脇 克浩 / 岸田 紀子
単位数(時間数)	1単位 30時間
学習方法	講義 演習
教科書・参考書	系統看護学講座 看護の統合と実践 看護管理
	チーム医療とは何か 第2版 日本看護協会出版会

授業概要と目的

将来、チーム医療の一員として医療活動に参画するために必要な基本的な知識や態度（チーム医療の理論、チーム医療を構成する専門職や保健医療機関、チーム医療の種類など）を講義およびグループ学習形式で習得する。チーム医療の一員として各専門職の専門性を活かし、積極的に医療活動に参画できるようになるために、チーム医療に必要な基本的知識や技術、態度を習得することを目的とする。
看護師として実務経験のある教員が、その経験を活かし講義を担当する。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標 (GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	通年	保健・医療・福祉システムにおける チーム医療の概要を理解する	1) チーム医療とはを述べる 2) チーム医療の重要性の背景を知る 3) チーム医療に必要な要素を述べる	菊井 友
2	通年	作業療法士の役割や機能、看護師の 関わりを理解する	1) 作業療法士の役割や機能の実際を知る。 2) 看護師の役割を知る	田中 敏彦
3	通年	社会福祉士の役割や機能、看護師の 関わりを理解する	1) 社会福祉士の役割や機能の実際を知る。 2) 看護師の役割を知る	岸田 紀子
4	通年	言語聴覚士の役割や機能、看護師の 関わりを理解する	1) 言語聴覚士の役割や機能の実際を知る。 2) 看護師の役割を知る	西脇 克浩
5	通年	臨床工学技士の役割や機能、看護師 の関わりを理解する。	1) 臨床工学技士の役割や機能の実際を知 る。 2) 看護師の役割を知る	花隈 淳
6	通年	理学療法士の役割や機能、看護師の 関わりを理解する	1) 理学療法士の役割や機能の実際を知る。 2) 看護師の役割を知る	奥地 伸城
7	通年	チーム医療にかかわるさまざまな専門 職の定義と業務、役割を理解する	1) チーム医療に関わる職種を知る 2) 各職種の定義を調べる 3) 各職種の教育背景・業務・役割を調べる	菊井 友
8	通年		1) チーム医療に関わる職種を述べる 2) 各職種の定義を述べる 3) 各職種の教育背景・業務・役割を述べる	
9	通年		1) 医療チームの構成メンバーとその役割を述 べる 2) 各チームにおける看護師の役割を述べる	

10	通年	チーム医療に必要な要素を理解する	1) チーム医療に必要な要素を体験を通して知る	菊井友
11	通年	学科横断的に構成するチームによる事例検討を通して、チームによる問題解決のプロセスを経験する。 提示された症例に含まれるさまざまな情報を多職種と共有し、患者や家族が有する問題を抽出して、グループとし課題解決の方法を考えることができる。	1) 看1) 患者・家族の抱える問題が抽出できる 2) 患者・家族の抱える問題解決の方法を述べる 3) チーム医療の評価の視点を述べる 4) 看護師の役割を考える	
12	通年			
13	通年			
14	通年			
15	通年	1) 授業総括 2) 科目試験		
成績評価方法		筆記試験 50点、 レポート・発表 50点		
準備学習など				
留意事項		レポートは指定された日時までに必ず提出すること。正当な理由がなく期限までに提出されない場合は0点となります。 各講師のレポートは出席していることが採点の対象となる。		

キャンパスライフガイド

学科・学年	看護科 2学年
科目名	看護における薬物療法
担当者	富永 美歩 / 緒方 麻由美
単位数(時間数)	1単位(30時間)
学習方法	講義・演習
教科書・参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学技術Ⅰ 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学技術Ⅱ 医学書院 看護が見えるVol.1基礎看護技術 メディックメディア 看護が見えるVol.2臨床看護技術 メディックメディア

授業概要と目的

薬物療法を受けている対象への診療の補助技術は、正確性・安全性・安楽性が求められ、高い倫理観が必要とされていることを学ぶ。さらに、薬物療法における看護師の役割と責務を理解し、科学的根拠を踏まえた臨床判断を養いながら、薬物療法の基本的知識、技術、態度を学ぶ。
看護師として実務経験のある教員が、その経験を活かし講義を担当する。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標(SBOs)	担当者
1	前期	薬物療法の基礎と看護師の義務(1) 薬物療法の基礎と義務	薬物療法の基本的な考え方が説明できる。	富永 美歩
2	前期	薬物療法の基礎と看護師の義務(2) 薬物療法の基礎と義務	薬物療法に関する看護師の役割と責務を説明できる。	
3	前期	与薬の種類と援助方法(1) 与薬の確認方法(6R) 与薬の種類と援助方法	与薬の確認方法を述べる。	
4	前期	与薬の種類と援助方法(2) 与薬の確認方法(6R) 与薬の種類と援助方法(演習)	与薬の確認ができる。 与薬の種類と援助方法が実施できる	
5	前期	注射法と観察(1) 注射法と看護	注射法に関する基礎的知識を説明できる。	
6	前期	注射法と観察(2) 注射法・輸液療法の看護の実際	共通する注射の実施方法と観察内容が説明できる。	
7	前期	注射法と観察(3) 注射法・輸液療法の看護の実際	共通する注射の実施方法と観察内容が説明できる。	
8	前期	注射法と観察(4) 注射の援助の実際(演習)	共通する注射法の準備と実施ができる。 バイアル・アンプル援助の実際 皮下注射 皮内注射の体験演習	
9	前期	注射法の援助の実際(1) 注射法の看護の実際(演習)	筋肉注射が実施できる。	
10	前期	注射法の援助の実際(1) 注射の援助の実際(演習)	筋肉注射が実施できる。	

11	前期	注射法と観察(5) 注射の援助の実際	輸液療法の基礎的知識が理解できる。 点滴静脈内注射の準備と観察内容が説明できる。	緒方 麻由美
12	前期	注射法の援助の実際(2) 点滴静脈内注射の実際(演習)	点滴静脈内注射が実施できる。	
13	前期	注射法の援助の実際(2) 点滴静脈内注射の実際(演習)	点滴静脈内注射が実施できる。	
14	前期	注射法の観察と援助の実際 特殊な薬剤投与時の観察	特殊な薬剤投与時の観察ができる。	
15	前期	1) 授業総括 2) 科目試験		
成績評価方法		評価: 筆記試験75点、リフレクションペーパーと課題の提出10点、薬物療法の看護技術到達度チェック15点の合計100点の評価とする。		
準備学習など		視聴覚教材による自己学習と自分の意見を発表できるように準備する。事前に演習に取り組む準備と事後のセルフトレーニングを行う。		
留意事項		担当教員は、臨床での看護師経験を活かし、安全・安楽な薬物療法の看護技術を指導します。 この科目は看護を学ぶうえでの基礎となる科目です。予習、復習を自主的に行い、積極的に学ぶ姿勢で受講してください。また、看護は広い学習が必要です。日頃から保健・医療や福祉に関する新聞記事やニュースなどの報道に関心を持つなど、色々なことに関心を持ち、多くの体験と学習をして視野を広げ、自己の問いを育む姿勢で学習を深めていきましょう。		

キャンパスライフガイド

学科・学年	看護科 2学年
科目名	看護シミュレーション基礎演習
担当者	兼山美千代
単位数(時間数)	1単位(30時間)
学習方法	講義・演習
教科書・参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 看護学概論 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学技術Ⅰ 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学技術Ⅱ 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 臨床看護学総論 医学書院 フィジカルアセスメントがみえる メディクメディア

授業概要と目的

これまでに学んだ看護技術を統合させ、対象の症状や環境条件に合わせた看護を自ら考え判断して実践につなげられる。
 看護師として実務経験のある教員が、その経験を活かし講義を担当する。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標(SBOs)	担当者
1	前期	看護過程の復習する	看護過程について想起できる	兼山 美千代
2	前期	事例をアセスメントする	情報を整理できる	
3	前期	事例をアセスメントする	ゴードンの機能的健康パターンに分類できる	
4	前期	事例をアセスメントする	情報の解釈・分析できる	
5	前期	事例をアセスメントする	解釈・分析内容を文章化できる	
6	前期	グループでクリティークする	建設的意見を積極的に発言できる	
7	前期	看護診断(問題の明確化)する	関連図を作成できる	
8	前期	看護診断(問題の明確化)する	関連図を作成できる	
9	前期	看護診断(問題の明確化)する	看護問題を抽出できる	
10	前期	看護診断(問題の明確化)する	優先順位をつけることができる	
11	前期	看護計画を立案する	期待される成果(短期目標)を設定できる	
12	前期	看護計画を立案する	O－P, C－P, E－Pで表記できる	
13	前期	看護計画を立案する	O－P, C－P, E－Pで表記できる	
14	前期	実施内容を記録する	SOAPで表記できる	
15	前期	1)授業総括 2)科目試験	看護過程についてリフレクションできる 看護過程一式を提出できる	
成績評価方法		授業態度・提出期限の厳守・提出物の内容		
準備学習など		「看護実践への架け橋」「病態治療学」「看護技術」を復習する		
留意事項				

キャンパスライフガイド

学科・学年	看護科 2学年
科目名	地域で暮らすことを支える
担当者	西山 都師恵
単位数(時間数)	1単位(15時間)
学習方法	講義
教科書・参考書	ナーシング・グラフィカ 地域療養を支えるケア メディカ出版

授業概要と目的

先に学んだ地域で暮らす人、地域・在宅看護論実習Ⅰ人の思いとその暮らしから学んだことをもとに、国が掲げる地域包括ケアシステムが誕生した背景、機能とその実際を知り、地域に暮らす人が安心して、安全に人生を全うするための方法を学ぶ。そして地域包括ケアシステムによりできることと、残された課題を考えてほしい。そうしたことから自分のできることを追求する姿勢をもってほしい。これは自らもまた地域の一員として存在しているという視点に立つことと、看護師としてという2つの側面ととらえることで、看護実践につなげてほしい。

看護師として実務経験のある教員が、その経験を活かし講義を担当する。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標(SBOs)	担当者
1	前期	地域で健康に暮らすための地域包括 ケアシステムを理解する	1 地域包括ケアシステムの機能を述べることができる 2 地域で暮らすための、自助、互助、共助、公 助について説明できる	西山 都師恵
2	前期	地域包括支援センターの機能を理解 する	1 地域包括支援センターの機能を述べること ができる 2 地域との連携と共同について説明できる	
3	前期	ケアマネジメントができる能力を修得 する	1 ケアマネジメントの概要を説明できる 2 介護保険におけるケアマネジメントを述べ ることができる 3 地域ケア会議の概要を説明できる	
4	前期	地域で安心・安全に暮らすために理 解し、対策を講じることができる能力を 修得する	1 事例をもとにアセスメントし、事例の問題点を 説明できる	
5	前期		2 実際の地域をアセスメントし、暮らすための 課題を明らかにする	
6	前期		3 住み慣れた地域で暮らすために、課題を明 らかにできる	
7	前期		4 得られた課題から、どのような対策があるか を説明できる	
8	前期	科目試験(45分)		
成績評価方法		筆記試験(80%)と課題や演習の参加状況(20%)を総合的に判断する		
準備学習など		1 各講義の学習目標が達成できるように、復習をしっかりと行うこと 2 自分の居住地の介護保険で利用できる概要や事業所の位置などを調べておくこと		
留意事項		講義の進行が早いいため、各自の復習が大切になる		

キャンパスライフガイド

学科・学年	看護科 2学年
科目名	地域で療養する人を支えるⅡ 共助、公助
担当者	馬場 啓子
単位数(時間数)	1単位(30時間)
学習方法	講義
教科書・参考書	ナーシング・グラフィカ 地域療養を支えるケア・地域療養を支える技術 メディカ出版

授業概要と目的

本講義では対象の生活を支える法制度・施策を理解する。法制度・施策は対象者の生活の基盤であり、望む生活を叶える、重要な礎である。地域包括ケアで看護師は『法制度に精通した看護実践者』を目指す。よって、本講義では理解した法制度を看護にどう活かすのか、その考え方と方法の理解をゴールとする。

地域包括ケアシステムで、看護実践の場は変遷する。しかし、どの場においても生活者を護る擁護の考えおよび看護に必要な基本姿勢は変わらない。ここでは、特に地域・在宅看護実践時に求められる権利擁護の重要性を考え、その内容を学ぶ。

地域・在宅看護論には地域包括ケアシステム理解が欠かせないため、『地域で療養する人を支えるⅠ』の学びと連動しながら本講義を進める。

看護師として実務経験のある教員が、その経験を活かし講義を担当する。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標(SBOs)	担当者
1	前期	地域包括ケアシステム(共助、公助)における社会資源の考え方と活用にかかわる看護の役割を理解する。	・社会資源の概念と活用する目的を述べる。 ・看護師がかかわる社会資源の領域、活用における役割を述べる。 ・事例を通し必要とされる社会資源を述べる。 ・多様な福祉用具を知り療養者の暮らしの変化を考える。	馬場 啓子
2	前期			
3	前期	療養者支援の基盤となる法制度の概要を学び、活用方法を理解する。 1) 医療保険制度 2) 後期高齢者医療制度	・制度の概要と仕組みを述べる。 ・療養者事例における保険種別の適応とサービス給付を述べる。	
4	前期	3) 介護保険制度	・介護保険制度のしくみとサービス提供の方法を述べる。 ・グループワークを通し、事例療養者と家族の望む暮らしが叶うサービスを考える。 ・全体討議の場を通じて、サービス導入がもたらす暮らしの変化を知る。	
5	前期			
6	前期			
7	前期			
8	前期	ハンディキャップを抱える人の法制度を理解し、その多様性と課題を理解する。 1) 難病 2) 精神障害者 3) 障害者(児)	・難病対策と関係機関・関係職種の連携を述べる。 ・精神障害者への地域支援体制と社会資源を述べる。 ・障害者(児)を取りまく法制度と療養児とその家族への看護から必要な社会資源を考える。 ・ハンディキャップを抱える人の課題を述べ必要な看護の姿勢を考える。	
9	前期			

10	前期	生活困窮状況にある人の支援と看護の関わりを理解する。	・公的扶助と社会保障制度の必要性を述べる。 ・生活保護の概要を述べる。 ・介護関連事件を検討し、看護が地域で療養者家族を支える意義について考える。	馬場啓子	
11	前期	訪問看護制度を通して、適応方法を学び療養生活を支える看護の専門性を理解する。	・訪問看護ステーション制度の概要と仕組みを述べる。 ・訪問看護内容と多職種連携について述べる。 ・グループワークを通し、訪問看護制度の根拠を用い理想の訪問看護ステーションを創造する。 ・全体発表の内容から訪問看護ステーションの共通する理念、看護の専門性を検討する。		
12	前期				
13	前期				
14	前期	療養者の権利を護る制度を学び、看護の役割を理解する。	・成年後見制度・虐待防止に関する法律の概要を述べる。 ・地域・在宅看護における倫理的課題とその対応を述べる。 ・事例を通し、認知症療養者の社会資源と在宅ケアシステムを述べる。		
15	前期	1) 授業総括	授業全体の内容を振り返ることができる。		
		2) 科目試験			
成績評価方法		筆記試験			
準備学習など					
留意事項					

キャンパスライフガイド

学科・学年	看護科 2学年
科目名	地域で療養する人を支えるⅢ 在宅看護技術
担当者	山根 基宏／内藤 綾子／鈴木 苑香／山根 有花／足立 淳平／堀 淳
単位数(時間数)	1単位(30時間)
学習方法	講義
教科書・参考書	ナーシング・グラフィカ 地域療養を支える技術 メディカ出版

授業概要と目的

ここでは地域で療養する人の暮らしを支え、在宅看護を展開するために必要な医療処置・管理方法について学ぶ。看護師として実務経験のある教員が、その経験を活かし講義を担当する。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標(SBOs)	担当者
1	通年	訪問看護の実際		内藤 綾子
2	通年	在宅療養者の症状・状態別看護(1) 認知症高齢者への在宅看護	認知症高齢者への在宅看護の特徴が説明できる。	山根 基宏
3	通年	在宅療養者の症状・状態別看護(2) 元の療養者への在宅看護	がんの療養者への在宅看護の特徴が説明できる。	山根 有花
4	通年	在宅療養者の症状・状態別看護(3) 神経難病の療養者への在宅看護	神経系難病の療養者への在宅看護の特徴が説明できる。	山根 基宏
5	通年	在宅療養者の症状・状態別看護(4) 神経系難病の療養者への在宅看護	神経系難病の療養者への在宅看護の特徴が説明できる。	足立 淳平
6	通年	在宅療養者の症状・状態別看護(5) 疾病や障がいをもつこどもの在宅看護①	疾病や障がいをもつこどもの在宅看護の特徴が説明できる。	内藤 綾子
7	通年	在宅療養者の症状・状態別看護(5) 疾病や障がいをもつこどもの在宅看護②	疾病や障がいをもつこどもの在宅看護の特徴が説明できる。	鈴木 苑香
8	通年	在宅看護におけるターミナル期の療養者の看護(1) 緩和ケアの実際 看取りの看護と家族ケアの概念	在宅看護におけるターミナル期の療養者の看護が説明できる。	山根 有花
9	通年	在宅看護におけるターミナル期の療養者の看護(2) 在宅での死後の処置 グリーフケア	在宅看護におけるターミナル期の療養者の看護が説明できる。	内藤 綾子
10	通年	特殊な技術を伴う在宅看護(1) 在宅酸素法(HOT)	特殊な技術を伴う在宅看護の目的と特徴、およびヘルスアセスメントと看護技術について説明できる。	山根 基宏
11	通年	特殊な技術を伴う在宅看護(2) 在宅人工呼吸器療法(HMV)	特殊な技術を伴う在宅看護の目的と特徴、およびヘルスアセスメントと看護技術について説明できる。	山根 基宏

12	通年	特殊な技術を伴う在宅看護(3) 在宅輸液療法	特殊な技術を伴う在宅看護の目的と特徴、およびヘルスアセスメントと看護技術について説明できる。	内藤 綾子
13	通年	精神疾患をもつ療養者への在宅看護の特徴を理解する。	精神疾患をもつ療養者への在宅看護の特徴が説明できる。	堀 淳
14	通年	在宅での服薬管理を理解する。	在宅での服薬管理が説明できる。	
15	通年	1) 授業総括 2) 科目試験		山根 基宏
成績評価方法		(山根)筆記試験85% (堀)筆記試験15%		
準備学習など				
留意事項				

学科・学年	看護科 2学年
科目名	地域で療養する人を支えるⅣ 在宅看護の実際
担当者	難波 愛子
単位数(時間数)	1単位(30時間)
学習方法	講義・演習・発表会
教科書・参考書	ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論(1) 地域療養を支えるケア 第7版 メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論(2) 在宅療養を支える技術 第2版 メディカ出版

授業概要と目的

この科目は在宅看護における看護過程の展開方法を学ぶことを目的とし、事例を通して在宅看護を受ける療養者とその家族の健康状態、生活環境、価値観や意向、家族介護力や社会資源活用などアセスメントの視点を理解する。看護過程についての講義と演習を通し、在宅で看護を提供するうえでの実践的な知識を学び、事例により在宅看護の流れを学習する。

看護師として実務経験のある教員が、その経験を活かし講義を担当する。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標(SBOs)	担当者
1	後期	1.在宅療養における看護過程の展開技術を理解する.	1)看護過程の目的 2)看護過程の意義 3)看護過程の特徴	難波 愛子
2	後期	2. 在宅におけるヘルスアセスメントが理解できる.	1)在宅におけるヘルスアセスメントとは何か ・ヘルスアセスメントの目的 2)在宅におけるヘルスアセスメントの基本 ・視点 ・心がけること	
		3. 情報収集の項目とアセスメントのポイントが理解できる.	1)ICFを用いた情報の統合 2)図を用いた情報の統合	
3	後期	4. 在宅療養における看護過程の展開のポイントを理解する。	1)優先順位のポイント 2)計画立案におけるポイント 3)評価項目とポイント	
4	後期	1. 在宅療養における看護過程の展開ができる。	事例展開(演習) ※ALS(筋委縮性側索硬化症)患者 ①展開方法、記録用紙の説明 ②記録の実際 ・病態理解 ・フェースシート① ・フェースシート② ・フェースシート③ ・薬物療法の理解 ・関連図作成 ・①、②、③のアセスメント ③GW(アセスメントの検討)	
5	後期			
6	後期			
7	後期			
8	後期			
9	後期			
10	後期			
11	後期			
12	後期			
13	後期			
14	後期	1. 学びのの共有	検討したアセスメントを他の人に伝わるように発表し、共有できる	
15	後期			
成績評価方法		パフォーマンス評価(90点)、提出・態度の評価(10点)		
準備学習など		授業の前後は予・復習を行い,自ら学ぶ姿勢で受講する。		
留意事項		課題に沿って展開し、提出期限を厳守する。		

キャンパスライフガイド

学科・学年	看護科 2学年
科目名	病気と共に生きる成人を支えるⅡ（クリティカルケア）
担当者	糟谷 豪哲 / 富永 美歩
単位数(時間数)	1単位 30時間
学習方法	講義、演習
教科書・参考書	系統看護学講座 成人看護学②～⑭ 医学書院 系統看護学講座 別巻 クリティカルケア看護学 医学書院

授業概要と目的

成人は、自立し自律している個人として、自分自身の健康について自分なりの考えを持ち、セルフケアしながら生きている。その健康がひとたび危機的な状況に陥ると、セルフケアの維持が難しくなることを学ぶ。健康危機状況にあっても、看護として何ができるのかの視点を養う。また、健康危機状況から回復していく過程の中で、セルフケアの再獲得に向けた看護を実践する視点を養う。
看護師として実務経験のある教員が、その経験を活かし講義を担当する。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標 (GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	後期	クリティカルケア看護の概論を理解する	クリティカルケア看護の特徴を説明する。	富永 美歩
2	後期	クリティカルケア看護の実践に必要なマネジメントを理解する	1) クリティカルケア看護の管理とチーム医療について述べる 2) クリティカルケア看護と倫理・法律について述べる	
3	後期	クリティカルな患者の状態を理解する	過大侵襲を受けた患者の生体反応について述べる	
4	後期	クリティカルケア看護に必要な看護技術を理解する(1)	観察と全身状態のアセスメントができる(シミュレーター使用)	
5	後期	クリティカルケア看護に必要な看護技術を理解する(2)	急変時の対応が実施できる(シミュレーター使用)	
6	後期	クリティカルケア看護に必要な看護技術を理解する(3)	気管挿管が必要となる患者のアセスメントができる	
7	後期	クリティカルケア看護に必要な看護技術を理解する(4)	気管挿管時の看護が実施できる	
8	後期	事例を通して心筋梗塞急性期の必要な看護を理解する	事例を通して急性心筋梗塞急性期の必要な看護を考えることができる。 循環のモニタリング、評価方法 補助循環について(IABP、PCPS)	糟谷 豪哲
9	後期			
10	後期	事例を通して体温異常の必要な看護を理解する 事例を通して脳血管障害の必要な看護を理解する	事例を通して体温異常の必要な看護を考えることができる 事例を通して脳血管障害の必要な看護を考えることができる	

11	後期	事例を通してARDSの必要な看護を理解する	事例を通して呼吸不全患者の必要な看護を考えることができる。 呼吸のモニタリング、評価方法 人工呼吸について	糟谷 豪哲
12	後期	セルフケアの代行と補完に関する医療機器を理解する		
13	後期	セルフケアの代行と補完が必要なショックの看護を理解する 輸血看護について理解する		
14	後期	救急に必要な看護技術を理解する		
15	後期	1) 授業総括		富永 美歩
		2) 科目試験		
成績評価方法		(富永) 筆記試験50点、(糟谷) 筆記試験50点の評価とする。		
準備学習など		クリティカルケア看護看護は対象も内容も幅広い分野です。日頃から保健・医療や福祉に関する新聞記事やニュースなどの色々なことに関心を持って視野を広げ、自己の問いを育む姿勢で学習を深めていきましょう。		
留意事項		特になし		

学科・学年	看護科 2学年
科目名	病気と共に生きる成人を支えるⅢ 周術期
担当者	富永 美歩 / 神野 歌純
単位数(時間数)	1単位 (30時間)
学習方法	講義・グループワーク・演習
教科書・参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学(5) 消化器 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 医学書院 系統看護学講座 別巻 クリティカルケア看護学 医学書院 北島泰子 中村充浩:急性期実習に使える！周術期看護ぜんぶガイド,照林社,2020.

授業概要と目的

周術期・回復期にある患者の適応を促進する看護を実践できる基礎的能力を養うことを目的としている。周術期では、手術を受ける患者を中心に手術が決定してから退院後までの一連の過程に沿った看護を提供することである。手術を受けた患者は手術侵襲から回復する段階で特徴ある反応を示し、回復していく。また、術後の反応から回復の歩みを判断し、術後の考えられる合併症を予測していくことから順調に、回復に向かうよう導いていく看護が重要であることを学ぶ。
 看護師として実務経験のある教員が、その経験を活かし講義を担当する。

回 (コマ)		「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標(SBOs)	担当者
1	通年	周術期看護の概要を理解する。	周術期看護の特徴を説明できる。 手術侵襲と生体反応の特徴を説明できる。	富永 美歩
2	通年	周術期看護の実際について理解できる。(手術前)	手術前の準備について説明できる。 術後合併症の発生機序と症状を説明できる。	
3	通年	手術と麻酔の種類とその違いを理解する。	手術の種類と分類を説明できる。 麻酔の種類とそれが身体にもたらす影響を説明できる。 患者が治療の選択ができるための支援を説明できる。	神野 歌純
4	通年	手術前の看護を理解する。	手術を安全に受けるための術前準備について説明できる。 術直前の様々な援助の違いを説明できる。 (1) 外来での看護 (2) 前日 (3) 当日(手術室入室まで) (4) 日帰り手術	
5	通年	手術中の患者とその環境について理解する。(1)	手術室の安全な環境管理と感染管理について説明できる。 手術室看護の援助内容を説明できる。 (1) 入室から麻酔導入までの支援 (2) 手術体位の介助と体位の実際 (3) 外科的手洗いとガウンテクニック	
6	通年	手術中の患者とその環境について理解する。(2)	手術体位の介助と体位の実際を体験する。 外科的手洗いとガウンテクニックを実施する。	

7	通年	手術中の患者を管理する方法を理解する。	術中に起こりやすい合併症とその予防方法、看護について説明できる。 (1)人工心肺装置 (2)装着モニターの種類と目的 麻酔覚醒時の看護師について説明できる。 病棟への継続看護について説明できる。	神野歌純
8	通年	周術期看護の実際について理解できる。(手術後)	予測される術後合併症予防のための援助を実施する。 (1)術後合併症を予測した環境調整 (2)術後合併症予防の方法 呼吸機能訓練 離床支援 深部静脈血栓症予防 (弾性ストッキング)	富永美歩
9	通年	退院に向けての支援について理解する。	術後障害に対するセルフケアの習得について説明できる。 術後障害をもちながら社会生活に復帰するための支援を説明できる。 (1)術後の継続看護の必要性 (2)継続看護を支える看護師と多職種間の連携	
10	通年	事例から周術期の看護を理解する。(1)	疾患の病態と治療方法が説明できる。	
11	通年	事例から周術期の看護を理解する。(2)	周術期に必要な情報収集ができる。	
12	通年	事例から周術期の看護を理解する。(3)	起こりやすい術後合併症を考えることができる。(1)	
13	通年	事例から周術期の看護を理解する。(4)	起こりやすい術後合併症を考えることができる。(2)	
14	通年	事例から周術期の看護を理解する。(5)	周術期の視点をふまえた看護計画を立案できる。	
15	通年	授業総括・科目試験		
成績評価方法		(富永)筆記試験40点、レポート課題25点 提出期限を守らない場合は0点とする。 (神野)筆記試験35点		
準備学習など		授業前後には予習・復習を積極的に行うこと。		
留意事項		この科目は、周手術期・回復期の看護を学ぶ上で必要な知識となる科目です。予習・復習を自主的に行い、積極的に学ぶ姿勢で受講してください。また、看護は広い学習が必要です。日頃から保健・医療・福祉に関する新聞記事やニュースなどの報道に関心を持つなど、色々なことに関心を持ち、多くの体験と学習をして視野を広げ、自己の問いを育む姿勢で学習を深めていきましょう。		

学科・学年	看護科 2学年
科目名	病気と共に生きる成人を支えるⅣ（がん看護・緩和ケア）
担当者	酒井 幸子 / 金子 かの子 / 藤原 裕子
単位数(時間数)	1単位(30時間)
学習方法	講義
教科書・参考書	系統別看護学講座 成人看護学②～④ 医学書院 系統別看護学講座 緩和ケア、がん看護 医学書院

授業概要と目的

緩和ケアの考え方と実際の疼痛コントロールについて学ぶ。特殊な治療と看護では、放射線療法と化学療法を学ぶ。終末期における看護の考え方と看護の実際について学ぶ。また、終末を迎える家族への看護(グリーフケア)の実際についても学ぶ。
看護師として実務経験のある教員が、その経験を活かし講義を担当する。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標(SBOs)	担当者
1	通年	がん患者を取り巻く実際を知る	・がんの三大治療法について正しく答えることができる ・全人的苦痛が4つ答えることができる	金子 かの子
2	通年		・心理的・社会的サポートの必要性を述べるができる ・患者を支える家族への支援をロールプレイで経験する	
3	通年	がん患者を取り巻く看護問題に 気づく	・薬物療法における副作用を何も見ずに3つ記述できる ・初回投与をうける患者への注意点を2つ答えられる	
4	通年		・放射線療法を受ける患者への注意点を3つ記述できる ・放射線療法における副作用を2つ述べるができる	
5	通年		・外来と入院での患者支援を比較できる ・症例をもとに看護問題として苦痛を1つ選択し、症状緩和するための方法をグループで討議できる	
6	通年	事例を通して肺がんの病態を理解し、病期、検査、治療を知ることができる	・肺がんの病態、病期、検査、治療を説明できる	藤原 裕子
7	通年	事例を通して終末期の肺がん患者の全人的苦痛を知ることができる。	・終末期の肺がん患者の苦痛を身体的側面、精神的側面、社会的側面、霊的側面の4つの視点で考えることができる	
8	通年	事例を通して終末期の肺がん患者の看護問題に気づき、苦痛緩和の看護援助を理解する事ができる	・終末期の肺がん患者の看護問題を述べるができる ・終末期の肺がん患者とその家族の苦痛緩和について述べるができる	

9	通年	緩和ケアの考え方を習得する	・緩和ケアの歴史的背景や疾患の広がりや全人的苦痛について述べるができる	酒井 幸子
10	通年	疼痛コントロールの看護を習得する	・がん性疼痛のアセスメントとケア・治療の特徴を説明できる	
11	通年	終末期看護の特徴を習得する	・終末期にある対象と終末期看護の考え方を説明できる	
12	通年	終末期の症状とケアを習得する	・終末期の身体的・精神的苦痛と必要なケアを考えることができる	
13	通年	緩和ケア・終末期ケアにおける家族の看護を習得する	・終末期患者の家族の特徴と必要な看護を考えることができる(グリーフケア)	
14	通年	緩和ケア・終末期ケアにおける社会資源・ACPの考え方を習得する	・緩和ケア、終末期に利用できる社会資源やアドバンス・ケア・プランニングの考え方を説明できる	
15	通年	1) 授業総括 2) 科目試験		
成績評価方法		(酒井) 筆記試験50%、(金子) 筆記試験30%、(藤原) 課題20%		
準備学習など				
留意事項				

キャンパスライフガイド

学科・学年	看護科 2学年
科目名	病気と共に生きる成人を支えるⅤ 臨床判断と看護技術
担当者	岩田 幸代 / 松浦 美都 / 大野 健二
単位数(時間数)	1単位(30時間)
学習方法	講義・演習
教科書・参考書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 成人看護学総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学4 臨床看護総論 医学書院 北島泰子 中村充浩:急性期実習に使える!周術期看護ゼンブガイド,照林社,2020. 医療情報科学研究所:看護がみえる vol.1 基礎看護技術,メディックメディア.2018. 医療情報科学研究所:看護がみえる vol.2 臨床看護技術,メディックメディア.2018.

授業概要と目的

病気と共に生きる成人を支えるⅠ～Ⅲで学んだ知識を活かし、回復過程別看護を行う際の看護師のように考えるための臨床判断能力を養う科目とする。また、病期に合わせ必要な看護技術の提供ができるように技術の習得を目指す。
 看護師として実務経験のある教員が、その経験を活かし講義を担当する。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標(SBOs)	担当者
1	通年	包帯法の目的、種類と巻き方を理解する。	包帯法の目的と種類を述べることができる。	岩田 幸代
2	通年	DVT予防と上肢安静固定に必要な包帯法の実施とその観察を身につける。	目的に応じた包帯法(弾性包帯・三角巾)の実施とその観察、アセスメントができる。	
3	通年	患者の状態判断をする検体検査について理解する。	採血、尿検査、便検査、喀痰検査の取り扱い方法や注意点、その根拠を述べるができる。	
4	通年	糖尿病患者に行う処置と看護技術を理解する。	簡易血糖測定・インスリン皮下注射・自己検脈の方法や注意点、その根拠を述べるができる。	
5	通年	糖尿病患者に行う処置と看護技術を身につける。	簡易血糖測定を実施し、データに応じた観察、スライディングスケールに応じたインスリン皮下注射が実施できる。	
6	通年	糖尿病を患っている患者のフットケアを修得する。	フットケアの実践について述べるができる。	松浦 美都
7	通年	健康危機状態で救命救急治療を必要とする人への看護技術を理解する。	健康危機状況への救命救急治療を実施することができる。 (1) 一次救命処置(BLS)	大野 健二
8	通年	健康危機状態で救命救急治療を必要とする人への看護技術を身につける。	健康危機状況の人へのヘルスアセスメントができる。 (1) 緊急度を考えた観察 一次救命処置を実施できる。(演習)	

9	通年	静脈血採血、動脈血採血の方法を理解する。	静脈血採血、動脈血採血の採取方法や注意点、その根拠を述べることができる。	岩田 幸代
10	通年	静脈血採血の方法を身につける。①	ホルダー採血(真空採血)の注意点やその根拠に応じた実施ができる。	
11	通年	静脈血採血の方法を身につける。②	注射器採血の注意点やその根拠に応じた実施ができる。	
12	通年	術後管理に特徴的な観察と離床準備の知識を統合し、一連流れとして理解する。	モデル患者に使用されているデバイスとルートに応じた管理、観察、寝衣交換、離床について、実施計画の検討をすることができる。	
13	通年	術後管理に特徴的な観察と離床準備を一連流れとして身につける。	デバイスとルートに応じた管理、観察、寝衣交換、離床が実施できる。	
14	通年	技術試験	静脈血採血	
15	通年	科目試験　まとめ		
成績評価方法		技術試験:10点　筆記試験・課題・提出物など:90点　合計100点		
準備学習など		1. 授業の前後は予・復習を行う(1日45分の予・復習:15回で675分) *課題学習と授業時間を合わせて45時間(1時間は45分の計算とする)の学習により単位を修得するものとする		
留意事項		この科目は、成人期の臨床でよくある場面を想定している。そのため実習だけでなく、臨床でも活用できる科目です。予習・復習を自主的に行い、積極的に学ぶ姿勢で受講してください。またその都度多くのことに興味を持ち、疑問を解決しながら学習を深めていきましょう。		

学科・学年	看護科 2学年
科目名	高齢者の健康を支える
担当者	真木 裕加里 / 横山美由紀 / 長崎優子
単位数(時間数)	1単位(30時間)
学習方法	対面講義・グループワーク
教科書・参考書	系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護学概論 医学書院 系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 医学書院

授業概要と目的

健康障害をもつ高齢者を総合的に捉え、その高齢者と家族への看護を理解するとともに、健康レベルに合わせた看護の役割を学ぶことを目的としている。
看護師として実務経験のある教員が、その経験を活かし講義を担当する。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標 (GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期	骨粗鬆症・骨折のある高齢者の看護について理解する。	骨粗鬆症の理解をし、高齢者の3大骨折を説明できる。治療や予防において看護師として指導するうえで必要な知識を述べることができる。	真木 裕加里
2	前期	パーキンソン病・慢性硬膜下血腫である高齢者の看護について理解する。	疾患の理解をし、パーキンソン病の三主徴と分類を述べるができる。疾患から必要な看護を具体的に考えることができる。	真木 裕加里
3	前期	高齢者のリハビリテーションにおける看護の役割を理解する。	高齢者の身体機能の特徴を踏まえ理解しリハビリテーション時の看護を説明できる。	横山 美由紀
5	前期	高齢者の継続看護における役割について理解する。	高齢者の入院から退院後、継続して必要な看護を受けられるよう継続看護について説明ができる。	長崎 優子
4	前期	認知症にある高齢者の看護について理解する。	認知症について疾患の説明ができる。特徴的な看護を理解し説明ができる。	真木 裕加里
6	前期	心不全・うつ・せん妄である高齢者の看護について理解する。	高齢者に特徴的な疾患、予防の必要性、看護について説明することができる。	真木 裕加里
7	前期	排泄機能障害のある高齢者の看護について理解する。	排泄機能障害について理解し、症状に合わせた看護を説明できる。	長崎 優子
8	前期	熱中症・脱水症にある高齢者の看護について理解する。	疾患の説明ができる。予防や対応について理解し、実践のためのイメージができる。	横山 美由紀
9	前期	加齢に伴う薬物療法の注意事項と看護について理解する。	加齢に伴う薬物動態の変化・有害事象について理解し、アドヒアランスを高めるための指導を考え、説明することができる。	真木 裕加里
10	前期	高齢者の救命救急場面における看護師の役割を理解する。	高齢者に特徴的な救急の場面を学び、看護の役割を理解し、イメージすることができる。	長崎 優子

11	前期	高齢者のアクティビティを考え、企画する。	対象に合わせたアクティビティを目的から企画することができる。	真木裕加里
12	前期	高齢者のアクティビティを考え、企画・実践する。	対象に合わせたアクティビティを目的から企画することができる。	真木裕加里
13	前期	高齢者のアクティビティを実践する。	対象に合わせたアクティビティを実践し、振り返ることができる。	真木裕加里
14	前期	白内障・視覚障害・肺炎・COPDのある高齢者の看護について理解する。	高齢者の特徴的な疾患、予防の必要性、看護の説明ができる。手術を受ける患者の看護を具体的に述べることができる。	横山美由紀
15	前期	1) 授業総括		真木裕加里
		2) 科目試験		
成績評価方法		筆記試験70点、リフレクションペーパー15点、レポート10点、グループワーク5点の合計100点の評価とする。		
準備学習など		医学書院 系統看護学講座専門分野Ⅱ 老年看護学・老年看護病態・疾病論にて予習		
留意事項		グループワークでの参加姿勢も評価の対象とする。		

学科・学年	看護科 2学年
科目名	高齢者のもてる力を活かす
担当者	兼山美千代 / 百々加奈子
単位数(時間数)	1単位(15時間)
学習方法	講義・演習
教科書・参考書	系統看護学講座 系統看護学講座 系統看護学講座 専門分野 専門分野 専門分野 老年看護学概論 老年看護 病態・疾患論 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 医学書院

授業概要と目的

加齢による機能低下や疾病・障害のある高齢者では、日常生活動作の能力が低下することが少なくない。老年期の生活機能を理解し、安全に生活するための基盤を整え、高齢者の健康状態に合わせた生活支援の目的とその方法を理解する。高齢者のもてる力を最大限に活かし、自立した生活を支える基本的援助の方法を学ぶ。看護師として実務経験のある教員が、その経験を活かし講義を担当する。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標(SBOs)	担当者
1	通年	1. 日常生活を支える基本的活動が理解できる。 2. 基本動作と環境のアセスメントができる。	1) 高齢者の生活の基本となる日常生活動作を述べる。 2) 基本動作・姿勢を支える環境を述べる。 3) 日常生活の評価を述べる。 (バーセルインデックス、カツインデックス、FIM)	兼山 美千代
2	通年	1. 高齢者の摂食・嚥下が理解できる。 2. 高齢者の摂食嚥下障害が理解できる。	1) 摂食嚥下とは何かを述べる。 2) 摂食嚥下のメカニズムを述べる。 3) 加齢による摂食嚥下障害を述べる。 4) 摂食嚥下障害による弊害を述べる。	百々 加奈子
3	通年	1. 高齢者の転倒のアセスメントと看護が理解できる。 2. 高齢者に必要な転倒予防が理解できる。 1. 高齢者の廃用症候群のアセスメントと看護が理解できる。 2. 廃用症候群の早期予防が理解できる。	1) 高齢者の転倒リスクのアセスメント 2) 転倒が高齢者に及ぼす影響を述べる。 3) 転倒予防に向けた援助を述べる。 1) 高齢者の廃用症候群のアセスメント 2) 廃用症候群の早期発見と予防に向けた看護を述べる。	兼山 美千代
4	通年	1. 加齢に伴い生じる排泄機能の変化や障害を理解できる。 2. 排泄障害時のアセスメントと看護を理解できる。	1) 加齢に伴う排泄機能の変化を述べる。 2) 排泄困難の主な要因を述べる。 3) 尿失禁に対するアセスメントと看護を述べる。 4) 排便必要性を述べる。	
5	通年	1. 加齢に伴い生じる清潔への変化を理解できる。 2. 高齢者に生じやすい清潔に関する健康課題を理解できる。	1) 高齢者にとっての清潔を述べる。 ・身体的、精神的、社会的 2) 高齢者に生じやすい清潔に関する健康課題を述べる。 3) 清潔のアセスメントを述べる。 4) 清潔の援助を述べる。	

6	通年	1. 高齢者と生活リズムが理解できる 2. 加齢に伴う睡眠と覚醒の変化が理解できる。 3. 生活リズムのアセスメントができる。 4. 生活リズムを整える看護が理解できる。	1) 生活リズムとは 何かを述べる 2) 高齢者に見られる睡眠の障害と影響を述べる。 3) 活動・休息のアセスメントと看護を述べる。 4) 生活リズムを整える看護を述べる。	兼山 美千代
7	通年	1. 高齢者とのコミュニケーションと関わり方を理解できる。 2. コミュニケーション能力のアセスメントができる。 3. 高齢者の状態・状況に応じたコミュニケーションの方法を理解できる。 4. 高齢者におけるセクシャリティが理解できる。	1) 高齢者のコミュニケーションの特徴を述べる。 2) 高齢者とのコミュニケーションの原則を述べる。 3) コミュニケーション能力のアセスメントができる。 4) 状態・状況に応じたコミュニケーションの方法を述べる。 5) セクシャリティを述べる。	
8	通年	1)授業総括 2)科目試験		
成績評価方法		筆記試験100点		
準備学習など		予習・復習を自主的に行い、積極的に学ぶ姿勢で受講		
留意事項		老年看護学上で必要な知識となる科目である。日頃から高齢者に関心を持ち、多くの体験と学習を行い視野を広げ深めていきましょう。		

キャンパスライフガイド

学科・学年	看護科 2学年
科目名	高齢者のその人らしさを支える
担当者	春日井 美知代
単位数(時間数)	1単位 30時間
学習方法	講義・演習
教科書・参考書	系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患論 医学書院 老年看護ぜんぶガイド 照林社

授業概要と目的

健康障害を持つ高齢者の身体的、社会的、精神的特徴とその人らしさを理解し、QOLの向上を目指した高齢者の看護について、老年看護学の今までの知識を活用し看護過程の展開を図り、知識の統合を図る。高齢者の特徴を活かした看護過程の考え方として生活行動モデルによる看護過程と目標志向型思考の視点を学び、事例を用いて高齢者に必要な看護援助や看護計画の立案方法を習得する。
看護師として実務経験のある教員が、その経験を活かし講義を担当する。

回 (コマ)		「授業項目」 一般目標 (GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	通年	1. 高齢者の特徴を活かした目標志向型思考の看護過程の考え方 (1) 目標志向型思考と問題解決型思考の違いを理解する。	1) 高齢者の特徴を活かした目標志向型思考の看護過程の考え方について述べる。 ① 高齢者看護で目標志向型思考が用いられる意味を説明する。	春日井 美知代
2	通年	1. 生活行動モデルによる看護過程 (1) 生活行動モデルによる看護過程の目的について理解できる。 (2) 生活機能とは何かを理解する。	1) 生活行動モデルによる看護過程について述べる。 ① 高齢者の生活機能について説明する。	
3	通年	2. 生活行動モデルによる看護過程 (1) 生活行動モデルの4つの視点について理解する。 (2) 生活行動モデルの6項目のアセスメント視点を理解する。	1) 老年看護で生活行動モデルが用いられる意味を説明する。 ① 生活行動モデルの4つの視点の内容を述べる。 ② 生活行動モデルの6項目のアセスメント視点の活用。	
4	通年	1. 看護過程演習の事例の状況設定 (大腿骨頸部骨折・人工骨頭置換術後) (1) 高齢者の全体像の捉え方を理解する。 (2) 病態・生活機能関連図という考え方を理解する。	1) 事例の高齢者の全体像を述べる。 2) 事例の病態・生活機能関連図の作成。	
5	通年	1. 事例の看護過程の展開 (1) 事例患者に合わせた活動・休息のアセスメント視点を理解する。	1) 事例患者の「活動・休息」の生活行動のアセスメントのを実施する。	
6	通年	1. 事例の看護過程の展開 (1) 事例患者に合わせた食事・排泄のアセスメント視点を理解する。	1) 事例患者の「食事・排泄」の生活行動のアセスメントのを実施する。	
7	通年	1. 事例の看護過程の展開 (1) 事例患者に合わせた身じたくのアセスメント視点を理解する。	1) 事例患者の「身じたく」の生活行動のアセスメントのを実施する。	
8	通年	1. 事例の看護過程の展開 (1) 事例患者に合わせたコミュニケーションのアセスメント視点を理解する。	1) 事例患者の「コミュニケーション」の生活行動のアセスメントのを実施する。	

9	通年	1. 事例の看護過程の展開 (1) 老年看護の焦点の考え方を理解する。 (2) 事例患者の全体像を理解する。	1) 事例患者に合わせた看護の焦点の明確化ができる。 2) 事例患者の全体像を述べる。	春日井 美知代
10	通年	1. 事例の看護過程の展開 (1) 高齢者における看護の優先順位の考え方を理解する。	1) 事例患者に合わせた看護の優先順位の決定ができる。	
11	通年	1. 事例の看護過程の展開 (1) 老年看護の目標の考え方を理解する。	1) 事例患者の目標の決定ができる。	
12	通年	1. 事例の看護過程の展開 (1) 高齢者の看護計画の方法を理解する。	1) 事例患者に合わせた看護計画の立案をする。	
13	通年	1. 退院支援、多職種連携、福祉サービスの活用について理解する。	1) 事例患者に合わせた退院支援についてカンファレンスを実施する。	
14	通年	1. 高齢者、その人らしさを支える看護とはの理解を深める。	1) 演習を通して個々の老年観を話し合い、高齢者のその人らしさを支える看護とは何かを探究する。	
15	通年	1) 授業総括 2) 科目試験		
成績評価方法		筆記試験 50点、演習課題 50点 の合計100点の評価とする。		
準備学習など		担当教員は臨床での看護師経験を活かし、老年看護を教授していきます。 この科目は、老年看護学実習に必要な老年看護過程の展開を学びます。老年看護学の求める高齢者のその人らしさを支える看護とは何かを探究し、自己の老年観をより深く考え明確にしてください。 事例を通し学んだ知識を老年看護学実習で活用できる知識として身に付けていきましょう。		
留意事項				

キャンパスライフガイド

学科・学年	看護科 2学年
科目名	その子らしく育つを支える
担当者	伊藤三鈴
単位数(時間数)	1単位(30時間)
学習方法	講義、グループワーク、グループ発表、課題レポート
教科書・参考書	系統看護学講座 専門分野 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院
授業概要と目的	
こどもの看護の変遷と現代社会の特徴を踏まえ、こども看護の特徴を理解する。看護の対象であるこどもの成長・発達概念と各発達段階での成長・発達の特徴を理解する。また、こどもの人格形成や生活の基盤となる家族の特徴を理解し、こどもとその家族を取り巻く社会の問題や社会保障制度を学習する。 看護師として実務経験のある教員が、その経験を活かし講義を担当する。	

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標(SBOs)	担当者
1	前期	小児看護の特徴と理念を理解する	・小児看護の理念と対象を述べる ・小児医療と小児看護の変遷を述べる	伊藤 三鈴
2	前期		・我が国の人口構造とこどもの死亡について述べる ・小児看護の課題を述べる	
3	前期		小児看護における倫理とこどもの権利を述べる	
4	前期	子どもの成長・発達を理解する	子どもの成長・発達の特徴を述べる	
5	前期		子どもの成長・発達評価を述べる	
6	前期	新生児の特徴と支援を理解する	・新生児の形態的特徴・生理的特徴を述べる ・新生児の看護の特徴を述べる	
7	前期	乳児の特徴と支援を理解する	・乳児の形態的特徴・生理的・社会的特徴を述べる ・乳児の看護の特徴を述べる	
8	前期		食の発達を述べる	
9	前期	幼児の特徴と支援を理解する	幼児期の形態的特徴・生理的・機能的発達を述べる	
10	前期		情緒・社会的特徴を述べる 幼児の看護の特徴を述べる	
11	前期	学童期・思春期の特徴と支援を理解する	・学童期・思春期の態的特徴・生理的・社会的特徴を述べる ・学童期・思春期の看護の特徴を述べる	
12	前期	家族の特徴とアセスメントを理解する	統計からみた現代社会における家族の特徴を述べる	
13	前期		統計からみた子どもの事故の特徴と要因を述べる	

14	前期	子どもと家族を取り巻く 法と制度を理解する	法と制度 ・予防接種・学校保健・臓器移植 について 述べる	伊藤 三鈴
15	前期	1) 授業総括		
	前期	2) 科目試験		
成績評価方法		科目試験、提出レポート、課題、授業態度すべて評価対象とする		
準備学習など		予習復習を行い学習習慣を身に着ける		
留意事項		提出期限厳守とする		

学科・学年	看護科 2学年
科目名	こどもと家族を支えるⅠ 病気のこどもと家族を支える看護
担当者	加藤 衣津美 / 田中 敏彦
単位数(時間数)	1単位(15時間)
学習方法	講義・グループワーク演習
教科書・参考書	系統看護学講座 小児看護学概論・小児臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 小児臨床看護各論 小児看護学② 医学書院

授業概要と目的

健康障害をもつこどもと家族への看護援助の方法について学ぶ。さまざまな回復過程にある健康障害をもつこどもとその家族に必要な看護援助の方法を習得する。児童虐待の現状及び障害のあるこどもと家族の看護と看護師の役割を理解し、家族支援の目的と方法を学ぶ。
看護師として実務経験のある教員が、その経験を活かし講義を担当する。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標(SBOs)	担当者
1	前期	こどもの状況(環境)に特徴づけられる看護 ・入院中のこどもと家族の看護を理解する。	(1) 入院中のこどもと家族の看護 ①入院環境と小児看護の役割を述べる。 ②入院中のこどもと家族の特徴と看護について述べる。	加藤 衣津美
2	前期	こどもの疾病の経過に特徴づけられる看護(1) 1) 慢性期にあるこどもと家族の看護の目的と方法を理解する。	(1) 慢性期のこどもと家族の看護 ①慢性期のこどもと家族の看護の特徴を述べる。 ②症状があるこどもと家族の看護について説明する。 ・こどものセルフケア能力～Ⅰ型糖尿病事例～	
3	前期	こどもの疾病の経過に特徴づけられる看護(2) 2) 急性期にあるこどもと家族の看護の目的と方法を理解する。	(1) 急性期にあるこどもと家族の看護 ①急性期にあるこどもと家族の看護の特徴を述べる。 ②急性期症状があるこどもと家族の看護について説明する。 ・脱水(嘔吐、下痢)症状 ・けいれん ・ショック症状 ③外傷や急病に対する応急処置についての基礎知識と技術を説明する。 ・異物誤飲 ・熱傷	
4	前期	こどもの疾病の経過に特徴づけられる看護(3) 3) 周手術期にあるこどもと家族の看護の目的と方法を理解する。	(2) 周手術期にあるこどもと家族の看護 ①周手術期にあるこどもと家族の看護について説明する。 ・プリパレーション	
5	前期	こどもの疾病の経過に特徴づけられる看護(4) 4) 終末期にあるこどもと家族の看護の目的と方法を理解する	3) 終末期のこどもと家族の看護 ①終末期のこどもと家族の看護について述べる。 ・意思決定支援 ・インフォームドコンセント、インフォームドアセント ・こどもの死生観 ②終末期症状のあるこどもと家族の看護について説明する。 ・疼痛	

6	前期	こどもの虐待と看護	(1) 虐待を受けている可能性のあるこどもと家族の看護 ①虐待の定義を述べる。 ②子ども虐待の経緯と現状を述べる。 ②リスク要因と発生予防・早期発見を説明する。 ③子どもの虐待の特徴的に見られる状況を述べる。 ④ 被虐待児および家族の看護について述べる。	加藤 衣津美
7	前期	障害のあるこどもと家族の看護	(1) 心身障害のあるこどもと家族の看護 ①障害のとらえ方を述べる。 ②障害のあるこどもと家族の特徴を述べる。 ③障害のあるこどもと家族への社会的支援を述べる。	田中 敏彦
8	前期	1) 科目試験(45分)	筆記試験	加藤 衣津美
成績評価方法		筆記試験と課題の評価とする。(加藤 90点)(田中 10点)		
準備学習など				
留意事項				

キャンパスライフガイド

学科・学年	看護科 2学年
科目名	こどもと家族を支えるⅡ こどもの力を引き出す看護技術
担当者	小松 陽子
単位数(時間数)	1単位(30時間)
学習方法	講義、演習
教科書・参考書	系統看護学講座 専門分野 小児看護学概論・小児臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 小児臨床看護各論 小児看護学② 医学書院 写真でわかる 小児看護技術アドバンス インターメディカ

授業概要と目的

こどもの成長発達過程の評価や疾病の早期発見、健康の維持・増進、疾病の回復を目的とした客観的情報を得るための身体アセスメントの方法を理解し、こどもへの検査・処置の目的、発達段階による方法の違い、症状によるこどもと家族への援助方法を学ぶ。
看護師として実務経験のある教員が、その経験を活かし講義を担当する。

回	授業日	「授業項目」	「授業内容」	担当者
1	通年	子どもの特徴をふまえた観察・アセスメント技術を身につける	・子どもがもつ力について述べることができる ・子どもや家族とのコミュニケーション技術について述べるができる ・成人と子どもとの違い、発達段階による違いを説明できる ・子どもに起こりやすい症状について説明できる	小松 陽子
2	通年		・子どもの何をどのように観察するかを説明することができる ・正常・異常の判断ができる 一般状態 口腔内、耳、鼻 呼吸、循環 腹部 筋・骨、皮膚・爪	
3	通年		・乳幼児のバイタルサイン測定ができる ・乳幼児の身体計測ができる ・発達の評価ができる	
4	通年			
5	通年	事例を用いて子どもと家族の看護を考える	・急性胃腸炎で外来を訪れた乳児と家族の看護について説明できる - 観察のポイントとアセスメント - 検査・処置時の看護 - 家庭でのケアや感染予防の指導	
6	通年		・気管支喘息で入院した幼児前期の子どもと家族の看護について説明できる - 外来における看護 - 入院時の看護 - 退院に向けた看護	
7	通年		・川崎病で入院した幼児前期の子どもと家族の看護について説明できる - 外来における看護 - 入院時の看護 - 退院に向けた看護	

8	通年	事例を用いて子どもと家族の看護を考える	・口蓋扁桃アデノイド摘出術を受ける幼児後期の子どもと家族の看護について説明できる 術前の看護 術後の看護 退院に向けた看護	小松 陽子	
9	通年		・ネフローゼ症候群で入院した学童期の子どもと家族の看護について説明できる 入院時(急性期)の看護 入院中(寛解期)の看護 退院に向けた看護		
10	通年	子どもの発達に応じた検査・処置における看護技術を身につける	・検査・処置を受ける子どもと家族の援助ができる 子どもへの説明と同意 プレパレーションとディストラクション 診察の介助		
11	通年		・検査・処置を受ける子どもと家族の援助ができる 採尿、採血 腰椎穿刺・骨髄穿刺		
12	通年		・検査・処置を受ける子どもと家族の援助ができる 与薬(経口、坐薬) 吸入法		
13	通年		・検査・処置を受ける子どもと家族の援助ができる 輸液管理・シーネ固定 輸液ポンプ・シリンジポンプの取り扱い		
14	通年		・検査・処置を受ける子どもと家族の援助ができる 各技術のプレパレーション発表		
15	通年	1) 授業総括 2) 科目試験			
成績評価方法		筆記試験(80点)小テスト(20点)、合計100点の評価とする。			
準備学習など		解剖生理の知識と「身体が見える病態治療学Ⅵ小児」の知識を基盤として授業が進んでいきます。必ず復習をしておいてください。			
留意事項					

学科・学年	看護科 2学年
科目名	こどもと家族を支えるⅢ こどもの命を守る臨床判断
担当者	三島元美
単位数(時間数)	1単位(30時間)
学習方法	講義、演習
教科書・参考書	系統看護学講座 専門分野 小児看護学概論・小児臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 小児臨床看護各論 小児看護学② 医学書院 写真でわかる 小児看護技術アドバンス インターメディアカ

授業概要と目的

実習中に多く出会う疾患や国家試験に多く出題される疾患を取り上げ、健康障害をもつこどもとその家族に対する看護展開を行い、臨床判断のプロセスを理解する。
看護師として実務経験のある教員が、その経験を活かし講義を担当する。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標(SBOs)	担当者
1	後期	「症状を示すこどもの看護、健康障害をもつこどもと家族への看護援助」① ・事例を通して健康障害を持つこどもと家族への看護援助を理解する	「健康障害をもつこどもと家族への看護の目的と方法」 (1)川崎病のこどもと家族の事例 ①川崎病の病態と特徴的な症状を述べる ②川崎病の治療について説明する。	三島 元美
2	後期		③合併症予防のためのこどもと家族への看護について説明する。	
3	後期		④症状や入院・治療生活に伴う身体的・心理的苦痛の緩和を図るための看護を説明し、ロールプレイする。	
4	後期		⑤ロールプレイからこどもの成長発達や家族の理解に合わせた看護だったかを振り返る。	
5	後期	「症状を示すこどもの看護、健康障害をもつこどもと家族への看護援助」② ・事例を通して健康障害を持つこどもと家族への看護援助を理解する	(2)アレルギー性疾患のこどもと家族の事例 ①喘息の病態と特徴的な症状を述べる ②喘息発作・非発作について説明する	
6	後期		③喘息とうまく折り合いをつけて生活していくためのこどもと家族の看護について説明し、ロールプレイする。	
7	後期		④ロールプレイからこどもの成長発達や家族の理解に合わせた看護だったかを振り返る。	
8	後期			

9	後期	「症状を示すこどもの看護、健康障害をもつこどもと家族への看護援助」③ ・事例を通して健康障害を持つこどもと家族への看護援助を理解する	(3) ネフローゼ症候群のこどもと家族の事例 ①ネフローゼ症候群の特徴的な症状を述べる。 ②ネフローゼ症候群の治療について説明する。	三島 元美	
10	後期		③生活制限のあるこどもと家族の看護について説明する。 ④生活制限のあるこどもと家族への看護をロールプレイする。 ⑤ロールプレイからこどもの成長発達に合わせた看護だったかを振り返る。		
11	後期				
12	後期				
13	後期	「症状を示すこどもの看護、健康障害をもつこどもと家族への看護援助」④ ・事例を通して健康障害を持つこどもと家族への看護援助を理解する	(4) 白血病のこどもと家族の看護の事例 ①白血病の病態と特徴的な症状を述べる ②抗がん剤治療について説明する		
14	後期		③長期入院によって成長発達に課題を強いられているこどもと家族の看護について説明し、ロールプレイする。 ④ロールプレイからこどもの成長発達に合わせた看護だったかを振り返る。		
15	後期				
成績評価方法		提出物・授業態度で評価(すべて評価対象とする)			
準備学習など		身体が見える病態治療学Ⅸ、こどもと家族を支えるⅠ・Ⅱの学習内容を復習しておく。 授業時に上記の授業資料を持参すること			
留意事項		授業に臨む姿勢は学生としてのマナーや授業参加態度に現れます。 学習者として思いやりのある授業にいきましょう			

学科・学年	看護科 2学年
科目名	女性と家族を支えるⅠ 妊娠期、分娩期
担当者	沖 玉恵
単位数(時間数)	1単位(30時間)
学習方法	講義
教科書・参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学[2] 母性看護学各論 医学書院 根拠と事故防止からみた母性看護技術、医学書院

授業概要と目的

妊娠・分娩期のメカニズムとその特徴 および健康問題を理解し、妊産婦の身体的・精神的・社会的変化に適応するためのセルフケア、健康増進やマイナートラブルおよび家族への援助を実践するための基礎的能力を習得する。
看護師として実務経験のある教員が、その経験を活かし講義を担当する。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標(SBOs)	担当者
1	前期	「妊娠とは」 ・妊娠期における	妊娠期間の定義が述べられる。 妊娠成立後の徴候について述べられる。	沖 玉恵
2	前期		「胎児の発育及び健康状態」 胎児の発育及び健康状態について述べられる。 胎盤と羊水の生理について述べられる。	
3	前期		妊婦の身体的・精神的・社会的変化について述べられる。 家族の心理的・社会的変化・愛着形成について述べられる。	
4	前期	「妊娠期の異常と看護」 ・妊娠期の異常および妊婦への看護について理解できる。	ハイリスク妊娠について述べられる。 妊娠期の感染症について述べられる。 妊娠糖尿病について述べられる。	
5	前期		妊娠高血圧症候群について述べられる。 血液型不適合妊娠について述べられる。 多胎妊娠について述べられる。 妊娠持続期間の異常について述べられる。	
6	前期	「妊娠期の看護」 ・妊娠期の看護に必要な知識と技術について理解できる。	妊婦健康診査について説明できる。 妊娠経過に伴うアセスメントができる。	
7	前期		妊婦への保健指導の適切な時期と内容について述べられる。	
8	前期		レオポルド触診法、子宮底・腹囲測定が実施できる。(演習)	
9	前期			
10	前期	「分娩三要素」 「分娩経過と分娩の機序」 ・分娩期の生理的な経過について理解し、できる。	分娩の三要素について述べられる。 産婦の身体的変化について述べられる。	
11	前期		分娩経過について述べられる。 分娩期のアセスメントの視点について述べられる。	

12	前期	「分娩期の看護」 ・産婦への看護について理解できる。	分娩第Ⅰ期～Ⅳ期の看護について述べられる。	沖 玉恵
13	前期	「分娩期の異常と看護」 ・分娩期の異常および産婦への看護について理解できる。	産道・娩出力・娩出物の異常について述べられる。	
14	前期		胎児機能不全について述べられる。 分娩時異常出血について述べられる。 産科処置と産科手術について述べられる。	
15	前期	1)授業総括 2)科目試験		
成績評価方法		筆記試験75点、パフォーマンス課題によるルーブリック評価25点、合計100点の評価とする。		
準備学習など		関連のある人体構造機能学、疾病治療学を復習しておくこと。		
留意事項				

学科・学年	看護科 2学年
科目名	女性と家族を支えるⅡ 産褥期・新生児期
担当者	佐野詳子
単位数(時間数)	1単位(30時間)
学習方法	講義・演習
教科書・参考書	系統看護学講座 母性看護学各論 母性看護学2 医学書院 ウエルネスからみた母性看護過程＋病態関連図 医学書院 根拠と事故防止からみた母性看護技術 医学書院

授業概要と目的

妊娠・分娩・産褥各期は女性の一生の中で心身ともにダイナミックに変化する時期である。そこに看護師として関わる際に必要な基礎知識と技術を、ここでは特に産褥期に焦点を当てて学ぶ。また家族が増えるということは、褥婦を取り巻く環境にどう影響を及ぼすのか、褥婦は環境の影響をどのように受けるのか、出産した後に心身ともに健康な状態で育児を行っていくには看護師としてどのように関わっていくことが必要かを考え、その看護を実践する基本的知識と技術を学ぶ。さらに新生児が出生直後から子宮外生活適応をしていくために必要な基本的知識と技術を学ぶ。担当教員は、助産師としての臨床経験・専門知識を生かし指導する。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標(SBOs)	担当者
1	通年	1. 褥婦・新生児看護の目指すものを理解する。 2. 妊娠～産褥への子宮の形態的变化が理解できる。	1. 褥婦・新生児看護の目的を述べる。 2. 褥婦・新生児看護の必要性を述べる。 3. 子宮の解剖学的位置と特徴を述べる。	佐野 詳子
2	通年	1. 産褥期の退行性変化と看護について理解する。	1. 産褥の子宮復古の経過を述べる。 2. 産褥の全身復古の概要を述べる。 3. 子宮復古不全の原因を述べる。 4. 復古促進への援助を述べる。	
3	通年	1. 産褥期の進行性変化と看護について理解する。	1. 乳汁分泌の仕組みを述べる。 2. 乳汁分泌が増加する要因を述べる。 3. 乳房トラブルの種類と原因を述べる。 4. 進行性変化促進への看護ポイントを述べる。	
4	通年	1. 母子関係について理解する。 2. 褥婦と家族関係について理解する。	1. 母児の早期接触の必要性を述べる。 2. 母児相互作用とは何かを述べる。 3. 新生児とその家族の関係変化をイメージし、利点や予測される問題を述べる。 4. 褥婦とその家族への看護ポイントを述べる。	
5	通年	1. 褥婦・新生児の退院後の生活について理解する。	1. 退院後の生活で注意することを述べる。 2. 子育て支援の必要性を述べる。 3. 退院後の看護の必要性を述べる。	
6	通年	1. 退行性変化への援助技術を理解する。	1. 産褥子宮底が確認できる。 2. 悪露の状態が確認できる。 3. 会陰部の状態が確認できる。 4. 全身の復古状態が確認できる。 5. 産褥体操が実施できる。	

7	通年	1. 進行性変化への援助技術を理解する。	1. 乳房の観察ができる。 2. 乳房・乳頭マッサージが実施できる。 3. 乳房の型に合わせた授乳方法を述べる。	佐野 詳子
8	通年	1. 新生児の生理と特徴を理解する。	1. 新生児の定義・分類を述べる。 2. 新生児の呼吸・循環・代謝・反射・皮膚状態を述べる。	
9	通年	1. 新生児の観察と看護について理解する。	1. 成熟徴候を3つ以上述べる。 2. 生理的体重減少の意味と理由を述べる。 3. 黄疸観察の必要性を述べる。 4. 新生児の便・尿の特徴を述べる。 5. 体温管理・排泄確認の必要性を述べる。 6. 新生児看護のポイントを述べる。	
10	通年	1. 新生児の異常について理解する。	1. 低出生体重児の特徴を述べる。 2. 高ビリルビン血症の原因を2つ以上述べる。 3. 高ビリルビン血症の検査・治療を述べる。 4. ビタミンK欠乏性出血の対策を述べる。	
11	通年	1.新生児の基本的看護技術について理解し、実施に結び付けることができる。	1. 新生児の全身の観察ができる。 2. 新生児のバイタルサイン測定ができる。	
12	通年	1.新生児の基本的看護技術について理解し、実施に結び付けることができる。	1. 新生児計測が実施できる。 2. 新生児を安全に抱くことができる。 3. 新生児の着替え・おむつ交換ができる。	
13	通年	1.新生児の基本的看護技術について理解し、実施に結び付けることができる。	1. 乳房の形に合わせた授乳時の抱き方が実施できる。 2. 人工乳の調乳ができる。	
14	通年	1. 新生児の清潔ケアについて理解し実施に結び付けることができる。	1. 新生児の清潔ケアの必要性を述べる。 2. 沐浴の実施ができる。	
15	通年	1)授業総括 2)科目試験		
成績評価方法		出席および授業・演習時の態度・状況・リフレクション40%、筆記試験40%、レポート課題20%、		
準備学習など		授業前後には予習・復習を積極的に行うこと。		
留意事項		女性と家族を支えるⅠ妊娠期・分娩期での学習をもとに進めていくため、既習学習の復習をしっかり行うこと。母性看護学は既習学習や経験したことが国家試験に直結するため、積み重ねの学習が重要です。この科目は母性看護学実習に必要な知識と技術習得の授業となるため、真剣に取り組むこと。提出物等の提出期限は厳守してください。遅れた場合は大幅減点対象となります。		

キャンパスライフガイド

学科・学年	看護科 2学年
科目名	女性と家族を支えるⅢ 事例から学ぶ
担当者	佐野詳子
単位数(時間数)	1単位(15時間)
学習方法	講義・演習
教科書・参考書	系統看護学講座 母性看護学各論 母性看護学1 医学書院 系統看護学講座 母性看護学各論 母性看護学2 医学書院 ウエルネスからみた母性看護過程+病態関連図 医学書院 根拠と事故防止からみた母性看護技術 医学書院

授業概要と目的

この科目は母性看護における看護過程がわかることを目的とし、褥婦および新生児の看護過程の講義と演習を行う。講義では妊娠・分娩・産褥の各期のウエルネスの考え方を学ぶ。その後演習にて、事例を用いて各期が正常な状態で経過しているか否かを分析・解釈し、産褥・新生児に適切と考えられるケア計画の立案を行う。正常な経過をたどっているかを正確に判断できることは異常の早期発見につながり、その後の母子保健に大きく関わることを理解しながら、母性看護実践に向けた講義・演習を行っていく。
担当教員は助産師としての臨床経験をもとに、講義・演習に当たっていく。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標 (GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	後期	1. 母性看護の対象の特性に応じた看護過程の概要を理解する。	1. ウェルネスの考え方を述べる。 2. マタニティサイクルにおける対象者を述べる。	佐野 詳子
2	後期	1. 妊娠期の看護過程の概要を理解する。	1. 事例より妊婦の特徴をふまえて妊娠期の経過判断が記述できる。	
3	後期	1. 分娩期の看護過程の概要を理解する	1. 事例より産婦の特徴をふまえて分娩期の経過判断が記述できる。	
4	後期	1. 産褥期の看護過程の概要を理解する。	1. 事例より褥婦の特徴をふまえて産褥期の経過判断が記述できる。	
5	後期	1. 新生児の看護過程の概要を理解する。	1. 事例より新生児の特徴をふまえて経過判断が記述できる。	
6	後期	1. 産褥・新生児に適した看護ケアを理解する。	1. 褥婦・新生児のウェルネスが実現するための看護計画を立案し、記述できる。	
7	後期	1. 家族に適した看護ケアを理解する。	1. 事例の褥婦・新生児の家族にはどのような看護が必要か考え、記述できる。	
8	後期	1) 授業総括 2) 科目試験		
成績評価方法		筆記試験30%、レポート提出状況70% (提出期限を守らない場合は0点扱いとする)		
準備学習など		授業前後には予習・復習を積極的に行うこと。		
留意事項		褥婦・新生児を深く理解するために必要な科目です。この科目以前に学んでいる母性看護学の授業内容をしっかりと復習し活用すること。		

学科・学年	看護科 2学年
科目名	こころを支えるⅠ こころのとりえ方と技術
担当者	吉田圭子
単位数(時間数)	1単位(30時間)
学習方法	講義
教科書・参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学① 精神看護の基礎 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学② 精神看護の展開 医学書院

授業概要と目的

担当教員は、臨床での看護師経験を活かし、精神看護の基本的なとりえ方や現場で使用する技術について指導します。この科目は精神看護技術を学ぶうえでの基礎となる科目です。健全なこころの働きについて理解し現代社会における精神保健活動の課題を学ぶ必要があること、また4000万人の保健医療労働者の約半分が悩まされている」とされる身体的精神的暴力に対して、その介入法である包括的暴力防止プログラム(CVPPP)や、対処技能を修得することでストレスと脆弱性の影響をやわらげる技術である生活技能訓練(SST)などを学び、精神科のリスクマネジメントを基礎として「こころの動き」に配慮した対応ができる技術の基礎と考え方を身に着けます。
看護師として実務経験のある教員が、その経験を活かし講義を担当する。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標(SBOs)	担当者
1	前期	ケアの人間関係1 精神科における患者－看護師関係 関係性の構築(ロジャース ペプロウ トラベルビー)	ケアの人間関係 前提 原則 方法が理解できる。 精神科コミュニケーション技術を理解する。	吉田 圭子
2	前期	ケアの人間関係2 精神科における関係のアセスメント プロセスレコードの読み方 活用	プロセスレコードを読んで、プロセスレコードを用いた会話分析を知ることができる。	
3	前期	ケアの人間関係3 プロセスレコードの活用 事例でみるプロセスレコードの読み方 患者看護師関係における感情の取り扱い	事例を読み解き、プロセスレコードを実際を書いてみる。 プロセスレコードが自己の言葉や態度の振り返りであることを理解できる。 転移 逆転移 アンビバレンスを学ぶ。	
4	前期	ケアの人間関係4 関係の視点からみた困難事例 SST動画 実際の現場でのSST	事例を読んで理解を深める。 チーム医療、カンファレンスの利点を知る。 SSTを理解する。	
5	前期	精神科における入院治療1 精神保健福祉法 入院形態	精神保健福祉法における入院形態の特徴を理解する。	

6	前期	精神科における入院治療2 精神科病棟の特殊性	精神科病棟と一般病棟の違い、区分と特徴を理解する。	吉田 圭子
7	前期	精神科における入院治療3 治療プログラム	精神科アセスメントを理解する。 精神科訪問看護 他職種連携の利点を学ぶ。	
8	前期	精神科における身体ケア 精神科治療に伴う身体ケア	精神科の特性を理解した身体ケアを学ぶ。 睡眠障害のアセスメントを学ぶ。	
9	前期	安全をまもる1 精神科におけるリスクマネジメント	安全と人権 安全と治療 療養環境の整備 危険物への対処を理解する。	
10	前期	安全をまもる2 精神科におけるリスクマネジメント	精神保健福祉法における行動制限を理解する。	
11	前期	安全をまもる3 精神科におけるリスクマネジメント	暴力への対応を学ぶ。 CVPPPを学ぶ。	
12	前期	リエゾン精神看護	リエゾナーズの役割 活動を理解する。	
13	前期	災害時における心のケア	DPAT 東日本大震災から学ぶ。	
14	前期	看護師のメンタルヘルス	看護師の感情の管理 対処方法を学ぶ。	
15	前期	1)授業総括 2)科目試験		
成績評価方法		筆記試験		
準備学習など		精神科病棟をイメージできない場合は、精神科病棟を題材にした、映画や本に触れてきてください。 日頃から、保健 医療 福祉 障害に関連した報道に関心を持って、情報収集してください。		
留意事項				

キャンパスライフガイド

学科・学年	看護科 2学年
科目名	こころを支えるⅡ 社会で暮らす
担当者	内山 政一
単位数(時間数)	1単位(15時間)
学習方法	講義、グループワーク
教科書・参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学① 精神看護の基礎 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学② 精神看護の展開 医学書院

授業概要と目的

担当教員は、臨床での看護師経験を活かし、社会復帰・社会参加の基本と働きかけとして、精神科リハビリテーションの概念と基礎など、社会的側面からアプローチするケアや支援について指導します。これらの理解を深め、地域での自立、統合への支援の目的と種類、及び、支援の方法を学びます。また、家庭・学校・職場における精神看護やメンタルヘルスの概念と目的を理解し、教育的介入の方法と心理的支援のあり方を学ぶ。地域における精神科領域での自殺企図や自傷行為の防止や衝動コントロールの方法、アルコール依存のケアやボーダーライン対応など、安全管理の目的と方法について学びます。看護師として実務経験のある教員が、その経験を活かし講義を担当する。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標(SBOs)	担当者
1	通年	「精神科リハビリテーションの概念と社会的側面からの理解(1)」 1)精神科リハビリテーションの概念について理解できる	「精神科リハビリテーションの概念と基礎」 1)精神科リハビリテーションの概念を説明できる	内山 政一
2	通年	「精神科リハビリテーションの概念と社会的側面からの理解(2)」 1)地域で生活する対象へのリハビリテーションについて理解できる	「病院と地域をつなぐ役割のリハビリテーション」 1)精神科デイケアについて説明できる	
3	通年	「地域で生活するための支援(1)」 1)病院と地域をつなぐ看護の役割について理解できる	「事例検討」 1)事例検討を通して対象に必要な退院支援について考え、語る事ができる	
4	通年	「地域で生活するための支援」 1)地域生活を支えるシステムと社会資源について理解できる	「障害者総合支援法と法に基づくサービス」 「精神障害者保健福祉手帳に基づくサービスとその他の生活保障」 1)障害者総合支援法の分類を説明できる 2)障害福祉サービス、地域生活支援事業 地域相談支援、その他の社会資源について説明できる	
5	通年		「インフォーマルサポート」 3)インフォーマルサポートについて説明できる	

6	通年	「家庭・学校・職場における精神看護」 1) 家庭・学校・職場におけるメンタルヘルスについて理解できる	「家庭・学校・職場における精神看護・メンタルヘルスの概念・目的」 1) 家庭・学校・職場におけるメンタルヘルスの概要について説明できる	内山 政一
7	通年	「地域での安全管理」 1) 地域での事故防止の取り組み (1) 自殺企図・自傷行為の防止 (2) 他者への攻撃的行動・暴力の防止 (3) 衝動コントロール (4) アルコール依存へのケア (5) ボーダーライン 2) 生活に関する援助	「事故防止・生活に関する援助」 1) 地域での事故防止の取り組みについて説明できる (1) 自殺企図・自傷行為の防止 (2) 他者への攻撃的行動・暴力の防止 (3) 衝動コントロール (4) アルコール依存へのケア (5) ボーダーライン 2) 生活に関する援助について説明できる	
8	通年	1) 科目試験(45分)		
成績評価方法		筆記試験100点		
準備学習など		系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学② 精神看護の展開 医学書院 該当する9章、10章を事前に読み予習を行って下さい		
留意事項		他の精神看護学の講義で学んだ内容と関連づけて受講して下さい		

キャンパスライフガイド

学科・学年	看護科 2学年
科目名	こころを支えるⅢ 事例から学ぶ
担当者	左合 伸枝
単位数(時間数)	1単位(30時間)
学習方法	講義・演習
教科書・参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学① 精神看護の基礎 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学② 精神看護の展開 医学書院 オレムのセルフケアモデル 事例を用いた看護過程の展開 HIROKAWA

授業概要と目的

この科目では精神障害をもつ対象の看護に必要な基盤となる知識と考え方および看護過程の展開について学びます。精神科領域で多く出会う精神障害の事例を用いて、オレム-アンダーウッド理論のセルフケアについてアセスメントを行い、精神障害をもつ対象にとって必要な看護計画を立案できるように学習します。
看護師として実務経験のある教員が、その経験を活かし講義を担当する。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標 (GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	通年	「精神障害をもつ対象の看護」① セルフケア理論の概要を理解する	「精神障害とセルフケア」 オレム-アンダーウッド理論のセルフケアの考え方を説明することができる。	左合 伸枝
2	通年	「精神障害をもつ対象の看護」② 事例対象の疾患と治療について理解する	「事例対象の疾患・治療」 事例1を用いて事例対象を疾患と治療の側面から述べることができる。	
3	通年	「精神障害をもつ対象の看護」③ 精神科における身体のケアについて理解する	「身体のケア」 事例1を用いて精神科における身体のケアの意味や実際について述べるができる。	
4	通年	「精神障害をもつ対象の看護」④ 事例対象に合わせたアセスメントを考える	「アセスメント」① ①空気・水・食物、②排泄、③体温と個人衛生 について事例1に合わせてアセスメントを考えることができる。	
5	通年	「精神障害をもつ対象の看護」⑤ 事例対象に合わせたアセスメントを考える	「アセスメント」② ④活動と休息のバランス、⑤孤独と付き合い、⑥安全を保つ能力 について事例1に合わせてアセスメントを考えることができる。	
6	通年	「精神障害をもつ対象の看護」⑥ 家族を含めた看護の考え方を理解する	「精神障害を持つ対象と家族」 事例1を用いて家族との関係性や家族システムを含めた看護について述べるができる。	
7	通年	「精神障害を持つ対象の看護」⑦ 事例対象に合わせた看護計画を考える	「看護計画」 事例1のストレングス、望み、悩みに着目しケアの方向性・優先順位・プランを考えることができる。	

8	通年	「事例展開の実際」① プロセスレコードの意味と分析法 を理解する	「事例対象とプロセスレコード」 事例2との初対面を想定したロールプレイ でプロセスレコードを記載し分析すること ができる。	左合 伸枝
9	通年	「事例展開の実際」② 情報収集とアセスメント	「情報収集とアセスメント」 事例2のアセスメントを行う上で必要な情 報を収集する。	
10	通年	「事例展開の実際」③ 情報・分析の統合	「情報や分析の統合」 事例2のアセスメントを元にグループで関 連図を作成する。	
11	通年	「事例展開の実際」④ 事例対象に合わせた看護計画を考 える	「看護計画」① 事例2のストレングス、望み、悩みに着目 しケアの方向性・優先順位・プランを考 えることができる。	
12	通年	「事例展開の実際」⑤ 事例対象に合わせた看護計画を考 える	「看護計画」② グループワークを行い、実施するケアを具 体的に決定し準備することができる。	
13	通年	「事例展開の実際」⑥ 計画した看護援助をロールプレイ し、援助内容・援助方法について 検討する	「計画実施」 看護計画を実施し、事例対象に合わせた援 助内容・援助方法について検討することが できる。	
14	通年		「評価・修正」 援助結果をSOAPで記載し実施した計画を評 価修正する。ロールプレイ時のプロセスレ コードを振り返ることができる。	
15	通年	まとめ	「精神障害を持つ対象への回復に向けた援 助とは」 グループでテーマに沿ってカンファレンス を行い全体に向けて発表することができ る。	
成績評価方法		評価:演習課題等提出物評価90点、授業参加・態度10点、合計100点の評価とする。		
準備学習など		身体が見える病態治療学Ⅻ(精神)、こころを支えるⅠ、Ⅱの学習内容を復習しておく。必要時、上 記の授業資料を持参する。		
留意事項		課題は期限・提出法厳守です。守れない場合は0点になります。		

学科・年次	看護科 2学年 前期
科目名	基礎看護学実習Ⅱ 看護への思考と質の保証
担当者	学内担当教員、実習指導教員
単位数(時間数)	2単位(90時間)
授業形態	臨地実習施設
教科書・参考書	1.系統看護学講座 専門分野Ⅰ 看護学概論 医学書院 2.系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学技術Ⅰ・Ⅱ 医学書院 3.系統看護学講座 専門分野Ⅰ 臨床看護学総論 医学書院 4.看護がみえる Vol.1 基礎看護技術 メディックメディア 5.看護がみえる Vol.2 臨床看護技術 メディックメディア 6.看護がみえる Vol.3 フィジカルアセスメント メディックメディア

科目のねらい
この科目では、はじめて疾患を抱えた患者を受け持ち、観察や日常生活援助を通して患者を理解し、必要な看護を考えていく。看護は観察で始まり観察に終わるといわれるように、患者の行動や反応を観察していく中で、気づく力を養っていききたい。そして得た情報に意味づけしていくことが看護の思考プロセスであることを理解する。また、観察結果や日常生活援助が患者に及ぼす影響を振り返りながら、科学的根拠を明確にし、看護の主体的活動の在り方を学ぶ。さらに、受け持ち患者の健康回復を願い看護実践をしていく中で、看護の質の保証への責務を自覚し、専門分野へつなげていきたい。担当教員と実習指導者は、臨床経験を活かし指導を行う。

科目目標と学習内容	
科目目標1：観察結果が患者の健康回復に影響することを知り、看護師が行う観察の意義・目的を理解する。	
具体的目標	実習内容
1) 全体像を理解する。	(1) 身体的側面の理解 ①生理的ニード ②身体計測 ③身体機能の状態 ④病理の状態 ⑤フィジカルイグザミネーション バイタルサイン・視診・聴診・打診・触診 (2) 心理的側面の理解 ①行動的側面 身だしなみ、表情、行動や態度、感情の表出 ②認知的側面 注意力、集中力、見当識、記憶力 (3) 社会的側面の理解 ①人間関係 家族、職場、学校、地域 ②生活様式 趣味、交際、宗教、政治 ③経済状況 (4) 情報収集の手段 ①電子カルテ ②看護師・医療従事者からの説明 ③患者・家族とのコミュニケーション ④測定や観察、援助の実際を見学・一部実施
2) 情報の確認と整理ができる。	(1) 情報の整理 ①主観的情報・客観的情報 ②ゴードンの機能的健康パターン

科目目標2：得た情報から現状と今後の成り行きを予測してアセスメントし、看護問題を抽出する。	
具体的目標	実習内容
1) 観察した結果やデータが健康にどのように影響しているかアセスメントする。 2) 看護問題を明確化できる。 3) 看護問題の優先順位を決定する	(1) アセスメント ① 現状 ② 原因・誘因 ③ 成り行き ④ 看護の方向性 (1) 問題の関連性 ① 関連図の説明 (2) 看護問題の抽出 (1) 優先順位の決定 ① マズローの基本的欲求 ・ 生命維持・安全・安楽の保持 ・ その人らしさの保持 ・ 成長・発達の促進 (2) 優先順位の決定理由
科目目標3：患者の健康回復を願い看護目標を設定し、健康状態に応じた看護計画を立案する。	
具体的目標	実習内容
1) 対象に応じた看護計画を立案する。 2) 期待される成果の達成に向けて看護計画を立案する。	(1) 目標の決定 ① 期待される成果の設定 ・ 患者が主語 ・ 現実的で達成可能である ・ 測定できる、観察できる ・ 達成可能な期日の設定 ・ 1つの文章に1つの成果を記す (1) 具体性のある看護計画の立案 ① 観察計画 (O-P) ② 援助計画 (T-P) ・ 5W1H ③ 教育計画 (E-P)
科目目標4：看護実践が患者にどんな影響を与えるのかを確認しながら、計画した援助を実施する。	
具体的目標	実習内容
1) 安全・安楽の視点と根拠をもって援助を実施する。 2) 看護援助が患者にどのような影響を与えたのか観察する。	(1) 日常生活援助 ① 食事：食事の準備、介助、後片付け ② 排泄：排泄介助(ベッド上・ポータブルトイレ)、トイレ歩行介助、排泄環境の整備 ③ 清潔：全身清拭、陰部洗浄、洗髪、整髪、手浴、足浴、入浴、シャワー介助、特殊浴介助、洗面介助、口腔ケア、髭剃り ④ 衣生活：衣服・寝具の選択、調節、寝衣交換 ⑤ 環境：療養環境整備、リネン交換、転倒・転落防止 ⑥ 活動と休息：体位変換、安楽な体位の工夫 睡眠・休息環境の調整 ⑦ 移乗・移送：車いす、ストレッチャー、歩行器 (2) 安全で安楽な援助 ① 個別性に応じた方法の選択 ② 説明と同意を得る ③ 必要物品の準備 ④ 環境整備、援助効率の考慮 ⑤ 患者への適切な声掛け ⑥ 個別性に応じた実施時間、所要時間 ⑦ 体位の工夫 ⑧ プライバシーや苦痛への配慮 ⑨ 確実な後片付け ⑩ 実施前・中・後の観察と反応 ⑪ 報告 (1) 援助前・中・後の患者の反応や観察 ① バイタルサインの変動や症状の変化 ② 表情や言動の反応や変化 (2) 援助方法による影響 ① 体位 ② 使用物品 ③ 手順 ④ 所要時間 ⑤ 実施のタイミング ⑥ 声掛けや説明・同意

科目目標 5：実施した計画内容の妥当性を考え、評価・修正する。	
具体的目標	実習内容
1) 実施した看護援助の妥当性や修正の根拠を報告する。 2) 目標達成に向け、計画内容の評価・修正をする。	(1) 実施した看護援助による影響の有無から援助の妥当性と修正の根拠を考える (1) 評価・修正の視点 ① 目標の達成度 ② 生活の充実度の改善 ③ 患者の満足度 ④ 修正した計画内容 ⑤ 追加した計画内容
科目目標 6：看護の質を保証する要件を理解するために、看護実践における看護師の責務を知る。	
具体的目標	実習内容
1) 看護実践における看護師の責務を知る。 2) グループメンバーとしての役割を果たす。 3) 看護者としてふさわしい態度がとれる。	(1) 患者に看護を提供する責任 ① 安全 ② 安楽 ③ 倫理的配慮 ④ プライバシーの保護 ⑤ 説明と同意 ⑥ 自己研鑽 (1) グループメンバーとしての姿勢 ① 興味・関心を持って情報共有する姿勢 ② メンバー間の学びからの自己課題発見に向かう姿勢 ③ 共に学んで、高め合う姿勢 ④ グループメンバーとしての責任ある姿勢 ⑤ お互いに協力し合う姿勢 (1) 身だしなみ (2) 適切な言葉遣い (3) 患者を尊重した態度 (4) 指導を受ける際の態度 (5) 適切な報告・連絡・相談 (6) 記録物、提出物の期限厳守 (7) 主体的な学習 (8) 日々を振り返り、必要な学習を行い翌日の実習に活用 (9) 実習を俯瞰し自らの学びを発表
評価方法	実習評価は、実習の取り組み状況、指定の記録用紙・レポート・実習に必要な学習などを総合して、評価基準に基づき臨地実習指導者・担当教員で協議の上、評価する。
学習準備など	事前のオリエンテーション・実習要綱を確認し、実習に臨むこと

学科・年次	看護科 2学年 後期
科目名	成人看護学実習 病気の予防をする
担当者	学内担当教員、実習指導教員
単位数(時間数)	1単位(45時間)
授業形態	臨地実習施設
教科書・参考書	1.系統看護学講座 専門分野 成人看護学概論 医学書院 2.系統看護学講座 専門分野 成人看護学②～④ 医学書院 3..看護が見える Vol.3 フィジカルアセスメント メディックメディア

科目のねらい
生活習慣病の予防は、健康で幸せな人生を過ごすためには必要不可欠であり、この実習を通して、健康診断を受ける対象を理解し、健康な社会生活を送ることができるための健康維持の方法や健康教育の実際を学ぶ。担当教員と実習指導者は、臨床経験を活かし指導を行う。

科目目標と学習内容	
科目目標 1 健康診断を受ける成人を通して、生活習慣病への思いや健康管理の実際を理解する。	
具体的目標	実習内容
1 対象の健康に対する意識を理解できる。	・問診の見学 ・生活習慣改善の指導場面の見学 ・受診者とのコミュニケーション
科目目標 2 健康診断の一連の流れを見て、様々な健康診断の方法と得られた結果からよ病気の予防のための保健指導の必要性を判断する	
1 生活習慣病と疾病の発生要因の関連性を認識できる。 2 生活習慣病予防のための健診内容および結果の取り扱いについて理解できる。	・指導者からの健診センターの概要説明 ・健診結果の取り扱いについての説明 ・各検診（身体測定、血圧測定、視力測定、聴力測定、胸部X-P、エコー、心電図、婦人科検診など）の見学一部実施 ・受診者への心理的配慮

科目目標 3 生活習慣病の悪化予防のために必要な健康教育を理解する。	
1 対象のセルフ能力の把握ができる。 2 生活の自己管理に必要な日常生活指導について述べることができる。 3 生活習慣病の一時予防における看護師の役割について理解できる。 4 生活習慣病の二次予防における看護師の役割について理解できる。 5 生活習慣病の三次予防における看護師の役割について理解できる。 6 健康教育のあり方について述べることができる。	1) セルフケア能力の把握 ・日常生活の規制と阻害されるニーズ ・阻害する因子（闘病意欲、生活習慣、社会的役割、基礎知識） ・理解力 ・家族の支援 ・経済状況 ・疾病・治療、今後の生活に対しての受け止め方と対処方法 ・受容までの心理的プロセス：フィंक、コーン、ストレスコーピング教育活動の理解 ・家庭での健康管理状況の把握 ・就業状況の把握 ・患者および家族の健康障害に対する認識の把握 ・キーパーソンおよび家族の支援状況の把握 ・家屋状況の把握 ・年齢や発達段階に応じた生活・保健・退院指導 2) 健康教育の内容の明確化 3) 指導の実施
科目目標 4 看護職の専門的役割・他職種との連携について理解する。	
1 他職種との連携について述べることができる。 2 他職種との連携における看護師の役割について述べることができる。	関係機関との連携、協力の理解 ・社会資源の活用（経済的支援のための制度、地域で行われている支援、他職種との連携）

評価方法	実習評価は、実習の取り組み状況、指定の記録用紙・レポート・実習に必要な学習などを総合して、評価基準に基づき臨地実習指導者・担当教員で協議の上、評価する。
学習準備など	事前のオリエンテーション・実習要綱を確認し、実習に臨むこと

学科・年次	看護科 2学年 後期
科目名	老年看護学実習 在宅や施設で生活する高齢者
担当者	学内担当教員、実習指導教員
単位数(時間数)	2単位(90時間)
授業形態	臨地実習施設
教科書・参考書	1.系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院 2.系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患論 医学書院 3.山田律子他:老年看護過程 第4版 医学書院

科目のねらい

高齢者の特徴を理解し、安全に生活するための基盤を整え、施設や在宅で生活する高齢者の健康状態に合わせた生活支援の目的とその方法を学ぶ。また、高齢者と接する中で、高齢者の置かれている状況に関心を持ち、誠実に向き合い、相手を尊重することの大切さを学ぶ。

施設での看護職の役割をや施設内外でのチーム医療の実際を見学し、連携・協働の必要性について学ぶ。担当教員と実習指導者は、臨床経験を活かし指導を行う。

科目目標と学習内容	
科目目標1：対象の加齢による変化と特徴を理解する。	
具体的目標	実習内容
1) 対象の身体的・精神的・社会的特徴を述べる。	(1) 身体的変化 ① 防衛力 ② 予備力 ③ 適応力 ④ 回復力 (2) 精神的特徴 ① 知能…知覚・言語・記憶・推理・判断などの認知機能 ② 人格…個人の持つ一貫した行動傾向や心理的特性 ③ 創造性…示唆やヒントから思いつき、発想する多様さ (3) 社会的特徴 ① 役割の変化 (4) その人らしさ・多様性 ① 人生経験 ② 知恵・知識 ③ 困難を乗り越える力 ④ セルフケアの実施

科目目標2：対象に合わせたコミュニケーションを身に付ける。	
具体的目標	実習内容
1) 対象の特徴を踏まえ、対象に合わせたコミュニケーションを図る。	(1) 対象の特徴をふまえたコミュニケーション ① 言葉遣いの明確さ ② 話す速度・声の大きさと穏やかさ ③ 表現方法 ④ 筆談・文字表示の工夫 ⑤ 適切な補助具の使用 ⑥ 高齢者の心理の理解 ⑦ 目線の高さを合わせる ⑧ 広い面積でそっと触れる (2) 人生の先輩・年長者に対する態度 ① 共感的態度 ② 言葉遣い ③ 相手のペースに合わせた態度 ④ 生きてきた生活背景や時代背景の理解 ⑤ 高齢者の知恵など謙虚に学ぶ姿勢 (3) 対象への興味・関心 ① 相手を理解しようとする姿勢 ② 対象の意思の優先 ③ 人生の最終ステージの捉え方
科目目標3：施設を利用している対象の生活の特徴を理解し、その人のもてる力を活かした日常生活援助を実施する。	
具体的目標	実習内容
1) 対象が利用している施設の概要、生活環境を述べる。	(1) 施設の概要 ① 理念・目的・目標、施設の特徴 (2) 施設内の組織、体制の役割 (3) 施設・居室の構造 (4) 施設利用の目的と特徴 (5) 利用者の生活環境 ① 居室の状況 ② 人的環境 ③ プライバシー ④ 安全、安楽な生活面での環境 ⑤ 居室を構成する物品 (6) 一日の流れ (7) 行事・レクリエーション (8) デイケア
具体的目標	実習内容
2) 対象の健康状態、セルフケア能力を述べる。	(1) 対象の身体機能のアセスメント ① 老化による機能低下 ② 健康状態 ③ BADL、IADLの状態 ④ セルフケア能力 ⑤ 健康維持のための工夫 ⑥ 依存によるADLの低下状況

3) 対象に合わせた日常生活援助を実施する。	(1) 対象のセルフケア能力を活かし、QOLを考えた援助 ① 食事、排泄、基本動作と姿勢、清潔、衣生活、生活リズム、環境調整、コミュニケーション ② 日常生活の維持及び拡大のための指導 ・リハビリテーションへの参加 ③ レクリエーション ・生きがいや楽しみ、趣味への援助 ・アクティビティ参加 (2) 生活環境の調整 ① 生活習慣 ② ADLに合わせた環境 ③ 安全に配慮した環境 ・転倒・転落予防 ・感染予防 (3) 対象の健康状態に合わせた医療的援助 (4) 対象の適応力を踏まえた援助と自立機能訓練 (5) 対象の生活史・価値観・自尊心への配慮 (6) 強みを活かした援助
------------------------	---

科目目標4：在宅で生活する高齢者の地域コミュニティの役割を理解する。

具体的目標	実習内容
1) 在宅で生活する高齢者の地域コミュニティの役割を述べる。	(1) 地域コミュニティを支えている機関 ① 地域のかかわり ② 行政のかかわり (3) 地域コミュニティの役割 ① 地域コミュニティの目的 ② 地域コミュニティへの参加への動機 ③ 地域コミュニティへの参加の効果

科目目標5：認知症をもつ高齢者に環境が及ぼす影響について理解する。

具体的目標	実習内容
1) 認知症をもつ高齢者に影響を及ぼす環境を述べる。	(1) もの忘れセンターの概要 ① 理念・目的・目標、特徴 (2) 施設・居室の構造 (3) 利用者の目的と特徴 (4) 利用者の生活環境 ① 居室の状況 ② 人的環境 (同室者、面会人、施設職員等) ③ プライバシー、安全・安楽な生活面での環境 ④ 居室を構成する物品 ⑤ 共有スペースの特徴 (5) 一日の流れ (6) 行事・レクリエーション・リハビリテーションプログラム (7) 利用者に配慮した支援 ① 見当識への支援 ② 機能的な能力への支援 ③ 環境における刺激の質と調整 ④ 安全と安心への支援 ⑤ 生活の継続性への支援 ⑥ 自己選択への支援 ⑦ プライバシーの確保 ⑧ ふれあいの促進

科目目標6：高齢者をサポートするための多職種との連携・協働の実際を見学しチーム医療における看護師の役割を理解する。

具体的目標	実習内容
1) 高齢者をサポートするための多職種との連携・協働の仕組みを述べる。	(1) 多職種の役割と機能の把握 ① 福祉職：介護職、社会福祉士 ② 医療職：医師、リハビリテーション関連職 管理栄養士 (2) 保健医療福祉チームとの連携の実際 ① 施設での多職種の連携・協働 ② ケアカンファレンス (3) 認知症サポートの機能と役割 (4) 地域で生活する高齢者のサポート社会システム (コミュニティセンター)
2) 保健医療福祉チームにおける看護師の役割について述べる。	(1) 保健医療福祉チームにおける看護師の役割 ① 患者・利用者・家族・コミュニティ中心 ② 職種間コミュニケーション ③ 自職種をかえりみる ④ 他職種を理解する ⑤ 職種役割をまっとうする ⑥ 関係性にはたらきかける

評価方法	実習評価は、実習の取り組み状況、指定の記録用紙・レポート・実習に必要な学習などを総合して、評価基準に基づき臨地実習指導者・担当教員で協議の上、評価する。
学習準備など	事前のオリエンテーション・実習要綱を確認し、実習に臨むこと

学科・年次	看護科 2学年 後期
科目名	小児看護学実習Ⅰ その子らしく育つを学ぶ
担当者	学内担当教員、実習指導教員
単位数(時間数)	1単位(45時間)
授業形態	臨地実習施設
教科書・参考書	1.統看護学講座 専門分野 小児看護学概論・小児臨床看護総論 医学書院 2.系統看護学講座 専門分野 小児臨床看護各論 小児看護学② 医学書院

科目のねらい
健康なこどもの保育活動の実践及び学童期のこどもの学校生活に参加し、その子らしく育つためにこどもの成長発達や生活に応じた具体的な援助や支援の目的と方法を学ぶ。担当教員と実習指導者は、臨床経験を活かし指導を行う。

保育園実習(27時間)	
科目目標1：子どもの健やかな成長発達を促すための保育環境を理解する	
具体的目標	実習内容
1) 子どもが健やかに育つための保育環境を述べる 2) 子どもの安全を守るための保育環境を述べる 3) こどもの健康管理の方法を述べる。	(1) 保育園の概要 ① 保育理念、保育方針 ② 保育目標、保育体制 (1) 保育園の構造や設備環境 ① 園の構造・園庭・遊具 ② 設備：洗面所・トイレ・階段・扉・棚・床・柵 (2) 事故防止 ① 保育士の体制 ② 入園者の管理 ③ 送迎、入園者の管理 (3) 感染予防対策 ① 子どもの感染予防策 ② 消毒・換気、玩具の衛生 ③ 昼食・おやつの食器等の取り扱い ④ 保育士・職員の感染予防 (1) 園内での健康管理の実践 ① 送迎時の健康の確認場面の見学 ② 保育中のこどもの観察・お便り帳 ③ 体調不良時の対応 ④ 熱中症対策 (2) 感染予防 ① 手洗い・うがい・歯磨き・マスク
科目目標2：子どもの成長発達の特徴を理解する。	
具体的目標	実習内容
1) 乳幼児期の子どもの成長発達の特徴を述べる	(1) 乳幼児期の子どもの成長発達 ① 形態的特徴 ② 機能的発達 運動機能、認知・言語・コミュニケーション能力、社会性 (2) 発達段階に合った成長発達の度合いと個人差 ① 成長発達の度合いの観察 ② 個人差の理解 (3) 基本的生活習慣の獲得状況 ① 食事 ② 排泄 ③ 睡眠(午睡を含む) ④ 清潔 ⑤ 衣服の着脱

科目目標3：子どもの成長・発達に応じたコミュニケーションを実施する。	
具体的目標	実習内容
1) 成長・発達に応じたコミュニケーションをとる	(1) 乳幼児期における認知・言語・コミュニケーション能力、社会性の発達の観察 (2) 成長発達に合わせ、子どもが理解できる言葉の選択、非言語コミュニケーションの活用 (3) 遊びを活用してコミュニケーションをとる
科目目標4：子どもの成長・発達に応じた日常生活の援助を実施する。	
具体的目標	実習内容
1) こどもの日常生活の確立状況を把握し、保育士とともに日常生活援助を行う。 2) 遊びを通して成長発達を促す支援をする 3) 援助場面から子どもへの自己の関わりを振り返る	(1) 子どもの日常生活援助 ① 基本的生活習慣の獲得支援 ・ 食事：昼食、おやつ、偏食・アレルギーの対応 ・ 排泄：トイレ誘導、おむつ交換、排泄の自立への援助 ・ 睡眠：午睡の意義、午睡の状況・促し方 ・ 清潔：清潔行為、手洗い、うがい・歯磨き ・ 更衣：衣服の着脱・選択・調整 ・ しつけ (2) 家庭での生活 家での様子、睡眠時間、頑張っていること、できるようになったこと等 (1) 子どもの遊び ① 発達段階に合わせた遊び ② 各発達段階で使用する遊具 玩具の種類の違い ③ 各発達段階における遊びに対する興味・関心、集中力の違い (2) 遊びの支援 ① 各発達段階の子どもの遊ばせ方 ② 集団への働きかけ ③ 遊びの中のトラブル時の関わり (3) デイリープログラムの参加 ① 散歩 ② 誕生日会 (1) 実際の関わりの場面をリフレクションする
科目目標5：子どもの尊厳と権利を尊重した行動をとる	
具体的目標	実習内容
1) 子どもに対して倫理原則に則った行動をする	(1) 尊厳と権利を守る接し方 ① 笑顔で子どもに接する ② 子どもに平等に接する ③ 子どもの頑張りを認める ④ 子どもの話を最後まで聞く ⑤ 子どもとの約束を守る

小学校実習（18時間）	
科目目標1：学童期のこどもの健全な発育を促す学校環境が理解できる。	
具体的目標	実習内容
1) 学童期のこどもの発育を促すための施設の特徴を述べる	(1) 小学校の教育目標 教育方針、重点目標 (2) 小学校内の環境 ① 建物・校庭・運動施設 ② 設備：洗面所・トイレ・階段・床・柵など ③ 教室・特別教室 ④ 保健室
科目目標2：学童期のこどもの成長発達を促す健康支援、教育支援を理解できる。	
具体的目標	実習内容
1) 健康な学童期のこどもの健康管理の方法を述べる 2) 健康な学童期のこどもの教育支援の実際を述べる	(1) 学校での健康管理の実際 ① 健康診断 ② 感染症対策 ③ こころの関わり ④ 給食 (2) こどもの生活習慣の自立への支援 ① 食事 ② 睡眠 ③ 学習習慣 ④ その他 (3) 保護者とのかかわり (1) 学年による時間枠の設定 (2) 学習内容の設定 ① 言葉の選択 ② 集中時間、着席時間と工夫の実際 (3) 学年によるこどもの反応の違い (4) 放課や授業以外の時間の過ごし方
科目目標3：学童期のこどもの低学年と高学年の成長・発達の違いを理解できる。	
具体的目標	実習内容
1) 学童期の学年による成長発達の違いを述べる	1) 学童期の低学年と高学年の子ども ① 形態的特徴の違い ② 機能的発達の違い ③ 言葉、言動の表現 ④ 認知、理解能力 ⑤ 集団生活でのルール ⑥ 子ども同士の関係性 ⑦ 心の発達と問題
科目目標4：子どもの尊厳と権利を尊重した行動をとる	
具体的目標	実習内容
1) 子どもに対して倫理原則に則った行動をする	1) 尊厳と権利を守る接し方 ① 笑顔で子どもに接する ② 子どもに平等に接する ③ 子どもの頑張りを認める ④ 子どもの話を最後まで聞く ⑤ 子どもとの約束を守る
評価方法	実習評価は、実習の取り組み状況、指定の記録用紙・レポート・実習に必要な学習などを総合して、評価基準に基づき臨地実習指導者・担当教員で協議の上、評価する。
学習準備など	事前のオリエンテーション・実習要綱を確認し、実習に臨むこと

学科・年次	看護科 2学年 通年
科目名	母性看護学実習Ⅰ 生と性を学ぶ
担当者	学内担当教員、実習指導教員
単位数(時間数)	1単位(45時間)
授業形態	臨地実習施設
教科書・参考書	系統看護学講座 専門分野 母性看護学概論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 母性看護学各論 医学書院

科目のねらい
セクシュアルリプロダクティブヘルス/ライツの観点から母性の概念とその特徴、母性看護の意義と役割を理解する。母性看護をとりまく日本の社会状況は、女性の生き方の変化、少子化、出生前診断などの倫理的問題やドメスティック・バイオレンス、不妊、高齢出産やハイリスク妊娠の増加など多くの課題がある。このような母性を取り巻く環境との関連から母性看護の対象者とその健康課題を理解し、実践活動につなげられるように学習する。女性の各ライフステージの特徴を理解し、セクシュアルリプロダクティブヘルス/ライツの観点から、人としての性や生命をつなぐ生殖、産む権利、産まない権利などの考え方や価値観を学び、多様な思い・考え方から個別的な看護を実践する基礎的能力を養う。担当教員と実習指導者は、臨床経験を活かし指導を行う。

科目目標1：自己の思春期を振り返り、中学生像を考える。	
具体的目標	実習内容
1) 自己と他者の二次性徴（身体的変化および心理的变化）について比較し、共通・相違について述べることができる。 2) 思春期にある中学生像の実際を述べることができる。	(1) 自己の思春期の振り返り ・二次性徴（身体的・心理的变化）の起きた時期と変化の捉え方 ・二次性徴に伴う悩みや心配 ・人間関係での悩みや不安 (1) 思春期における中学生の特徴 身体面 ・身体バランス ・身体機能状態 心理面（行動的側面） ・雰囲気 ・身だしなみ、服装、髪型 ・行動や態度、感情の表出 心理面（認知的側面） ・注意力、集中力、記憶力 社会面 ・友人関係、教員との関係、家族、外部者との関係 (2) 自己の思春期時や実際の中学生の様子から、中学生像を考察する。
科目目標2：思春期における性教育の必要性を理解し、指導内容を考え実施できる。	
具体的目標	実習内容

1) 思春期における性教育の必要性について述べることができる	(1) 思春期における性教育の必要性の理解 ・ 思春期の時期に知っておきたかった事項 ・ 思春期であった自身に伝えたいこと ・ 思春期にある中学生の性の悩みの予測 ・ 思春期にある中学生の知りたい性教育内容の予測 ・ グループ内で性教育を行う必要性の理解と共有
2) 対象に応じた指導内容を立案することができる。	(1) 中学校での性教育の実際の理解 ・ 生と性の学習の取り組みと、助産師の行う思春期学級との関係や違い ・ 助産師の行う思春期学級の目的・内容の理解 ・ 看護学生が思春期教室を担当する意味の考察 (2) 性教育（思春期教室）に向けての指導内容の立案 ・ 指導内容の選定 ・ 指導案作成
3) メンバーと協力し、中学生に分かりやすい指導を行うことができる	(1) 性教育（思春期学級）に向けての指導準備 ・ 指導原稿の作成 ・ 指導媒体の作成 ・ 名札の作成 ・ リハーサル (2) 思春期学級の実施 ・ 司会進行、説明者等役割分担 ・ グループ同士の協力、グループ内の協力

科目目標 3：性被害の現状から、被害を受けた対象の健康問題について理解する。

具体的目標	実習内容
1) 性被害の実態を述べるができる	(1) 性被害の実態について ・ セクシュアルリプロダクティブヘルス/ライツ ・ 性被害の実態（性暴力、ドメスティックバイオレンス、セクシュアルハラスメント等） ・ 被害内容、相談内容
2) 性被害を受けた対象の健康問題等を述べるができる	(1) 性被害を受けた対象の身体的健康問題 (2) 性被害を受けた対象の心理的・精神的健康問題 (3) 性被害を受けた対象の社会的問題 (4) 性被害を受けた対象の経済的問題
3) 性被害支援センターの役割を述べるができる。	(1) 設置主体 (2) 支援内容 (3) 支援方法とその実際 (4) 支援における課題

科目目標 4：性被害の実態から、自らの性や生命を守る方法や性被害者への支援策を考える。

具体的目標	実習内容
1) 性や生命を守り性被害にあわないための方策を考えることができる。 2) 性被害を受けた対象にどのような支援をすることが必要かを考察し、述べるができる。	(1) 自らの性や生命を守るための具体的な方法を考察 (2) 被害者への対応や支援策の考察 (3) (1) (2) についてグループで考えをまとめ発表

科目目標 5：生と性を学ぶ①②の実習を通し、セクシュアルリプロダクティブヘルス/ライツの視点から自己の母性看護の考えを述べる。

具体的目標	実習内容
-------	------

1) 自己の母性看護観、性と生命についての考えを述べることができる。	(1)①②の実習をもとに、セクシュアルリプロダクティブヘルス/ライツの視点から自己の性に対する思い・考えを明確にするとともに生命の尊厳・生命倫理も含めた母性看護について、自己の看護観を考察 (2) 自己の母性看護観について発表
------------------------------------	--

評価方法	実習評価は、実習の取り組み状況、指定の記録用紙・レポート・実習に必要な学習などを総合して、評価基準に基づき臨地実習指導者・担当教員で協議の上、評価する。
学習準備など	事前のオリエンテーション・実習要綱を確認し、事前準備をして実習に臨むこと